

7 愛着のある景観の保全

行為地の周辺に地域の住民に親しまれている景観がある場合は、その景観を保全するよう努めるとともに、積極的に景観づくりに生かすこと。



市街地に残っている蔵



奥州街道の松並木



八丁目のヤエツバキ(日和田町)



上石の不動桜(中田町)

【基準のねらい】

親しまれている景観を保全することによって地域の景観が向上し、地域への誇りや愛着を持つことができます。これらの景観を地域の景観づくりの核として活用することにより、地域住民に親しまれ、誇りや愛着の感じられる良好な景観をつくり出すことができます。

【景観づくりの手法】

□ 親しまれている景観を保全する

歴史的建造物や樹木、ため池など地域の中で長く親しまれてきた景観は、私たちの心象風景となっているかけがえのない資源です。行為地やその周辺にこのような景観が存在する場合には、保全する必要があります。

□ 親しまれている景観への眺望を確保する

行為地の周辺に愛着の感じられる景観がある場合には、主要な視点場からの眺望に配慮するとともに、行為地やその周辺に視点場を整備します。

□ 親しまれている景観に配慮してデザインする

愛着のある景観の対象が蔵などの建造物の場合は、形態、意匠、色彩、素材等に配慮し、また樹木であれば、同種の樹木を植えることによって、これらと調和した景観をつくり出すことができます。

1 位置

ア 地形等の保全

従来の地形の改変を最小限にとどめるとともに、行為地内の優れた樹木、緑地等を保存し、建築物、工作物及び広告物の周辺の景観との調和に配慮した位置とすること。

【基準のねらい】

自然の地形は、その地域の風土や気候と結びつき、人々の生活の基盤となってきました。大規模行為を行う際には、このような地形の改変を最小限にとどめる位置とする必要があります。また、行為地内の優れた樹木、緑地等は、できる限り保存するとともに、これらの良好な景観資源と調和するような位置に配慮することが重要です。このようにすることにより、地域の特徴を生かした景観づくりを行うことができます。

【景観づくりの手法】

□地形に合わせた配置とする

従来の地形に合わせて建築物、工作物及び広告物を配置します。

□樹木や緑地を避けて配置する

行為地内に貴重な樹木や緑地がある場合には、これらを避けて配置します。

□現存する樹木などの景観資源を保全する

樹木などの景観資源を保全することにより、周囲の自然景観と建築物等が調和した景観をつくることができます。

◎：優良事例
×：景観阻害事例

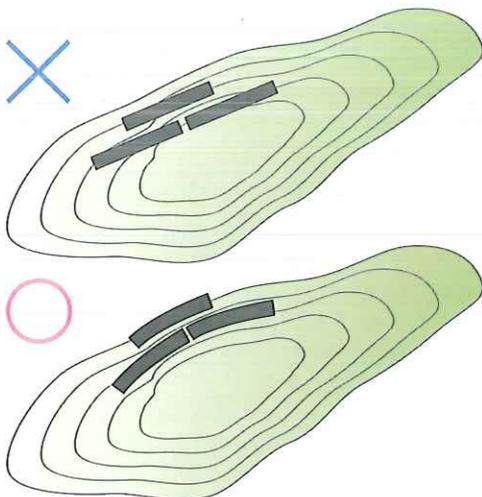


◎ 周辺の樹木や地形を生かすために施設を小規模に抑え、高床にしている。(大玉村)



◎ 建築物の平面形態を工夫して、既存の松の木を残している。(富岡町)

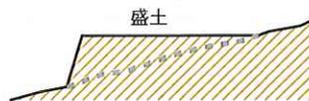
<地形に合わせた建築物等の配置>



等高線に合わせて建築物等を配置することにより、自然景観と調和した景観をつくることができます。

【用語解説】

盛土：敷地造成等において、他から採取した土砂を地盤の上に盛ること。



切土：傾斜地や凹凸のある土壌を切り取ること。



擁壁：切土や盛土による傾斜面の土の崩壊を防ぐための鉛直的な壁体構造物。

◎:優良事例
✕:景観阻害事例



◎ 施設を山の裾野に配置することで、もともとの自然景観の姿を失うことなく調和させている。(郡山市)



✕ 住宅地の背景となる山の頂部を削り取り、もともとの地形を失わせ周辺に対して圧迫感を与えている。

1 位置

イ 山頂への配置の回避

山頂、丘陵地の頂部等の従来の自然景観を著しく変化させるような位置への配置を避けること。

【基準のねらい】

山並みや丘陵は、大規模建築物等によりその頂部が見えなくなったり、稜線が分断されると人工的な印象を与えます。このため、これらの建築物等は山頂、丘陵地の頂部等に配置することを避ける必要があります。

【景観づくりの手法】

□ 主要な視点場から山並み等の稜線を遮らない位置とする

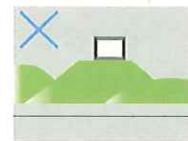
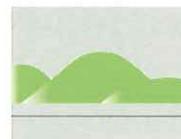
道路空間や休憩所などの主要な視点場からの眺望を確認し、山並みや丘陵の稜線を保全するよう、大規模行為の位置に配慮する必要があります。

□ できる限り裾野に配置する

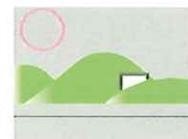
山頂付近を避け、裾野に配置することにより、山並みや丘陵地の稜線を保全することができます。

<行為地の選定>

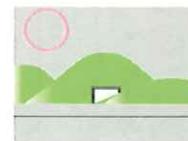
山頂部に大規模建築物等を配置すると、山頂部を切り取ることになり、自然景観を壊してしまいます。山頂部での行為をできるだけ避け、中腹や山裾にすることにより、自然景観と調和させることができます。



山頂に配置すると山頂部を切り取ることになる



中腹に配置し、山の稜線を遮らないようにする



山裾に配置し、山の稜線を遮らないようにする

1 位置

ウ 境界線からの後退

連続する町並み等の壁面線についての規則性がある場合を除いて、道路境界線及び隣地境界線からできる限り後退すること。

【基準のねらい】

壁面線の指定(建築基準法第46条)、建築協定(同法第69条)、地区計画(都市計画法第12条の5)等により壁面線や建築物の位置があらかじめ定められている地区以外では、道路境界線及び隣地境界線から後退することにより、ゆとりのある景観をつくり出すことができます。

【景観づくりの手法】

- 道路境界線や隣地境界線から建築物、工作物及び広告物を後退させる
道路境界線や隣地境界線から建築物、工作物及び広告物を後退させることにより、圧迫感を軽減することができます。また、隣棟間隔にゆとりが生まれることで、上空へ広がりを感じられ開放感のある景観をつくり出すことができます。後退により生じた空間においては、緑化を行うことにより、安らぎと潤いのある景観をつくり出すことができます。

<中心市街地・周辺市街地>

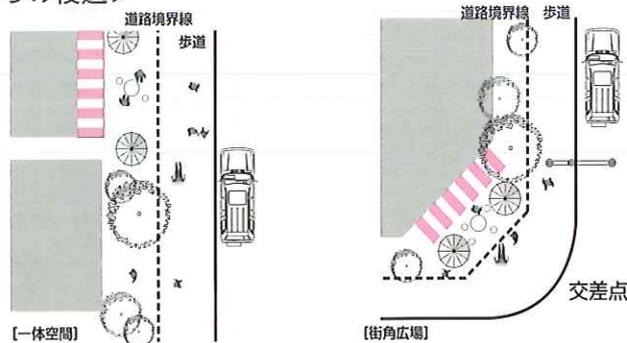
- 壁面後退により生じた空間を、滞留空間として活用する

壁面後退して生まれた空間を、歩行者が休んだり座ったりできる溜まりの空間として利用することにより、賑わいと活気のある景観をつくり出すことができます。また、この空間を緑化することにより、安らぎと潤いのある景観をつくり出すことができます。

<田園集落地域・自然地域>

- 壁面後退により生じた空間に、周辺の自然景観と調和した緑化を行う
壁面後退して生まれた空間に、背景となる自然景観と調和した緑化を行うことにより、自然景観と一体となった良好な景観をつくり出すことができます。

<境界線からの後退>



歩道に面している民有地との一体的な整備により、歩道と関連した憩いの場や歩行者、自転車の通行を妨げないたまり空間を確保します。

交差点の歩道と街角を一体的に整備することにより、特徴ある景観をつくり出します。まちの個性をつくるための象徴的な雰囲気や賑わいを感じる空間を実現するために民有地の一部を利用します。

◎: 優良事例
×: 景観阻害事例



◎ ゆとりのある配置と、緑化によって豊かな景観をつくっている工場群(山梨県甲府市)



◎ 建築物の一階部分を後退させ歩道の一部として活用している。(神奈川県横浜市)



◎ 道路境界から後退して溜まり空間をつくり出し、賑わいのある景観をつくっている。(福岡県北九州市)



◎ 境界線から十分な距離をとって建てられ、ゆとりのある落ち着いた景観をつくっている。(福島市)

- ◎:優良事例
 ×:景観阻害事例



◎ 旧街道の宿場の面影を今に伝える歴史的な町並み(下郷町)



× 歴史的建造物とスケール感の違う施設を近接して配置したために違和感のある景観をつくり出している。



× 歴史的建造物を大きく上回る建築物を近接して配置したために違和感のある景観をつくり出している。

1 位置

エ 歴史性の保全

歴史的建造物等の保存に努め、行為地が歴史的建造物等の優れた景観資源に隣接し、又は近接する場合は、景観の保全に配慮した位置とすること。

【基準のねらい】

歴史的建造物等は、その地域のシンボルとして、また、地域の歴史や文化を伝える景観資源として保存する必要があります。大規模行為が歴史的な景観資源に隣接し、又は近接する場合には、これらの景観資源に配慮した位置とすることが重要です。

【景観づくりの手法】

<中心市街地・周辺市街地>

- 歴史的な景観資源からできる限り離して配置する

歴史的な景観資源より規模の大きな行為を行う場合には、できる限り近隣接した位置で行わないようにします。

- 歴史的な景観資源への眺望を遮らない位置とする

歴史的建造物等は、市街地の中でアイ・ストップとなっていたり、その場所を特徴づけるランドマークとなっていることがあります。そのような場合は、歴史的建造物等への眺望を遮らないような位置とします。

<田園集落地域・自然地域>

- 歴史的な景観資源と周囲の自然景観に配慮した位置とする

田園集落地域や自然地域では、歴史的な景観資源と周囲の自然景観が調和し、美しい景観をつくり出しています。これらの景観資源に配慮するだけでなく、周囲の自然景観にも配慮した位置とすることが重要です。

【用語解説】

アイ・ストップ：一直線に伸びる空間を眺めたととき、視線がひきつけられる場所にある樹木や建築物などの対象物をいし、景観の構図を引き締める効果がある。

1 位置

オ 水際線の保全

行為地が湖沼、ため池、河川等の良好な景観を有する水辺に隣接し、又は近接する場合は、水際線を遮るような位置を避け、できる限り水際線から後退すること。

【基準のねらい】

湖沼、ため池、河川等の水辺は、水際線がすっきりと見えることにより美しい印象を与えます。このため、水際線を遮らないよう建築物を後退させ、水辺と調和した景観づくりを行うことが重要です。

【景観づくりの手法】

□水際線から後退させる

対岸からの眺望に配慮し、水際線を損なわないような位置に配置することにより、水辺と調和した景観をつくります。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ 水辺から建築物を離し、その間に緑を配置して水、緑、建築物を調和させている。(神奈川県横浜市)



× 水際に建築物を建築したために、水際線を途絶えさせ、水辺の美しい印象を損ねている。



× 水際線沿いに建築すると自然景観を損ねてしまう。(フォトモンタージュ)



◎ 水際線から後退して建築する。(フォトモンタージュ)

<人工的な水辺と建築物の調和>

自然の水際線を遮って建築することは、生態系の保全という点でも好ましいものではありませんが、建築物に人工的につくられた水辺空間を積極的に取り込むことは、人と水辺環境とのふれあいをもたらし、新たな景観をつくります。水辺空間は建築物の人工的な印象を和らげ、



(北海道占冠村)

自然と融和する姿をつくり出すことにも効果的です。

また、景観は水に映ることで深みを増し、水があることで視点場としての快適性を高めることにもつながります。

このため、新たにつくられる水辺空間に建築物が入り込むような一体的なデザインも考えられます。

ただし、設計の際に十分なシミュレーションや検討を行い、高度なデザイン操作を行う必要があります。

◎:優良事例
✕:景観阻害事例



◎ 隣接する敷地を提供しあい、休んだり座ったりできる溜まりの空間として開放し、都市の中に憩いを感じられる景観をつくり出している。(アメリカ、ニューヨーク)



◎ 通りから見える位置に、中庭としてオープンスペースが配置され、変化のある景観をつくり出している。(東京都港区)



◎ 協調して土地を提供することで通り抜け空間をつくり、奥行きを感じさせる景観となっている。(長野県小布施町)



◎ 隣接する建築物が協調して連続的な壁面後退を行い、まとまりあるオープンスペースを設けている。(会津若松市)

1 位置

カ 外部空間の創出

行為地が市街地の場合は、その行為地に隣接し、又は近接する土地の利用形態と調和するよう、歩行者に開かれたまとまりのある外部空間を創出できる位置とすること。

【基準のねらい】

隣接し、又は近接する建築物等と協調し、歩行者が休んだり座ったりできる溜まりの空間を創出することにより、賑わいと活気のある景観をつくることができます。

【景観づくりの手法】

□隣接する建築物等が互いに協調して広場空間を確保する

隣接する建築物等が互いに協調して広場空間を確保することにより、賑わいと活気を感じられる景観を生み出すことができます。

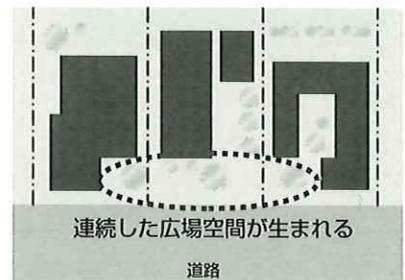
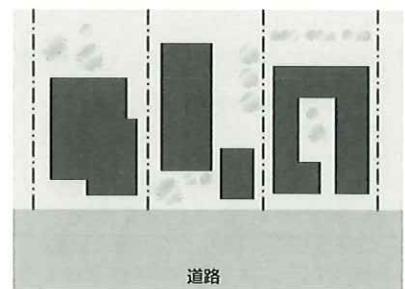
□街角の歩道空間と連続させて歩行者のための空間を確保する

建築物等の行為が街角で行われる場合には、交差点の歩道空間と連続的な空間を確保することにより、開放感と活気を感じられる街角の印象をつくることができます。

<広場空間の創出>

敷地の中に広場空間を設けるときには、近隣と協力しあって設けることが重要です。

このような広場空間は、隣接する敷地間に連続性があり、賑わいと活気を感じられる空間を創出することができます。



2 規模

ア 山並みへの眺望に配慮

周辺の山並みへの眺望を考慮し、建築物、工作物及び広告物の分割等による規模の調節を行うこと。

【基準のねらい】

大規模な建築物、工作物及び広告物は、周辺の山並みへの眺望を遮ってしまうことがあります。このため、分割等により規模の調節を図り、山並みへの眺望を確保します。

【景観づくりの手法】

□建築物及び工作物の規模を分節する

背景となる山並みへの眺望を確保するため、建築物及び工作物の規模を分節します。

□建築物を分棟し、工作物及び広告物を分割する

建築物を分棟し、工作物及び広告物を分割して配置することにより、背景となる山並への眺望を確保するとともに既存の樹林を保全することができます。

<山並への眺望に配慮した建築物の例>

大規模な建築物等は周辺の山並への眺望を遮ってしまうなど景観に大きな影響を与えます。

このようなことから、大規模な建築物等の建築等をする際には、規模を分節する方法や複数に分棟化して地形に沿って配置することにより周辺の景観に配慮したものとします。

分節化する

分棟化する

◎:優良事例
 ×:景観阻害事例



◎ 小さく分棟化することで建築物の規模を周辺の景観と合わせている。(京都府京都市)



◎ 自然と建築物が調和する景観をつくるために、施設を分棟化して土地の改変を少なくしている。(青森県田子町)



◎ 施設を細分化して小規模にし、分散させて配置することで、地形を大きく変えないようにしている。(大玉村)



◎ 外壁面や形態の構成に変化をもたせることで、周辺のスケールとの違いが大きくなるようにしている。(静岡県浜松市)

◎:優良事例
×:景観阻害事例



◎ 周辺の自然景観を阻害しないように樹冠から建築物が突出しない高さに規模を抑えている。(長野県軽井沢町)



◎ 樹木の高さより低い建築物の周りにさらに樹木を配置し、周辺の景観と調和させている。(北塩原村)



◎ 木立の中に施設を配置し、樹冠を超えない高さにすることで自然景観と調和させている。(大熊町)



× 樹冠を超える高さとなることにより、連続した緑を分断している。

【用語解説】

樹冠：樹木の枝や葉の茂っている部分。
眺望線：視点場から対象への視線。視点場も対象も広がりを持つので、複数の視線を考慮する。

2 規模

イ 樹林への配慮

行為地の周辺が樹林地である場合は、できる限り樹冠から突出しない高さとするよう努めること。

【基準のねらい】

樹冠の美しいところでは、建築物の高さを周辺の樹木より高くしないことにより、自然景観を保全します。

【景観づくりの手法】

□ 樹冠の高さより低くする

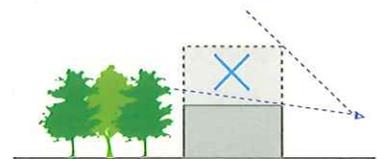
行為地が樹林地内の場合は、建築物、工作物及び広告物を樹冠から突出しない高さにする事で、樹林地の景観を保全することができます。

また、行為地の周辺に樹林地がある場合は、主要な視点場から樹林地への眺望線を考慮し、樹冠を超えない高さにするようにします。

<樹林への配慮>



行為地が樹林地内の場合は、樹冠から突出しない高さにする。



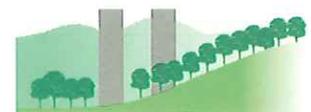
行為地の周辺が樹林地の場合は、主要な視点場からの眺望線を考慮して、樹冠を超えない高さにする。

<高さとの関係>

樹冠を超えない高さにする事で建築面積が大きくなり、土地の改変が大きくなることで、周辺の自然樹林の伐採量が増えたりすることは好ましくありません。

このようなときには、建築物が樹冠の高さを超えても周囲の山並みの景観と調和する方法も考えられます。

ただし、この場合には様々な視点場からの見え方やプロポーションの取り方など高度なデザインの検討が必要になります。



建築物が樹冠の高さを超えているが、細長い形態にすることで、山並みの稜線と対比的な景観をつくる



建築物の高さが樹冠を超えないように規模を調節する

2 規模

ウ 広告物の設置の制限

建築物又は工作物への広告物の設置はできる限り避け、やむを得ず設置する場合は、規模を必要最小限にとどめることにより、建築物、工作物及びその周辺の景観との調和に努めること。

【基準のねらい】

建築物や工作物への規模の過大な広告物の設置は、景観を阻害する原因となるばかりでなく、かえって広告物の表示が分かりにくくします。広告物を設置することをできる限り避け、やむを得ず設置する場合でも必要最小限の規模とすることが重要です。

【景観づくりの手法】

- のぼりや旗などの仮設広告物は設置しない

のぼりや旗などの仮設の広告物を乱立させると煩雑な印象を与えるため、できる限り設置しないようにします。やむを得ず設置する場合は、イベントの期間だけにし、また、デザインを統一したもの以外は掲出しないようにします。

- 大規模な広告物を避ける

規模の過大な広告物やスカイラインから突出した高い広告物は、景観を阻害するため、できる限り設置しないようにします。やむを得ず設置する場合は、規模を必要最小限とします。

- 数量や掲出方法を工夫する

広告物が乱立すると、建築物そのものが持つ魅力を覆い隠してしまうだけでなく、煩雑な景観をつくり出します。できる限り数量を抑えながら町並みと調和するよう集約化するなど掲出の方法を工夫し、また、大きさや高さに配慮することで、統一感のある整った景観をつくることができます。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ 文字情報で施設を伝えるのではなく、建築物の意匠で存在を主張している。(神奈川県横浜市)



× 広告物の氾濫は秩序のない景観をつくるだけでなく、情報過多により伝えるべきことも不明瞭になっている。



× 巨大な屋上広告塔で見苦しいスカイラインをつくり、施設名も分かりづらくなっている。

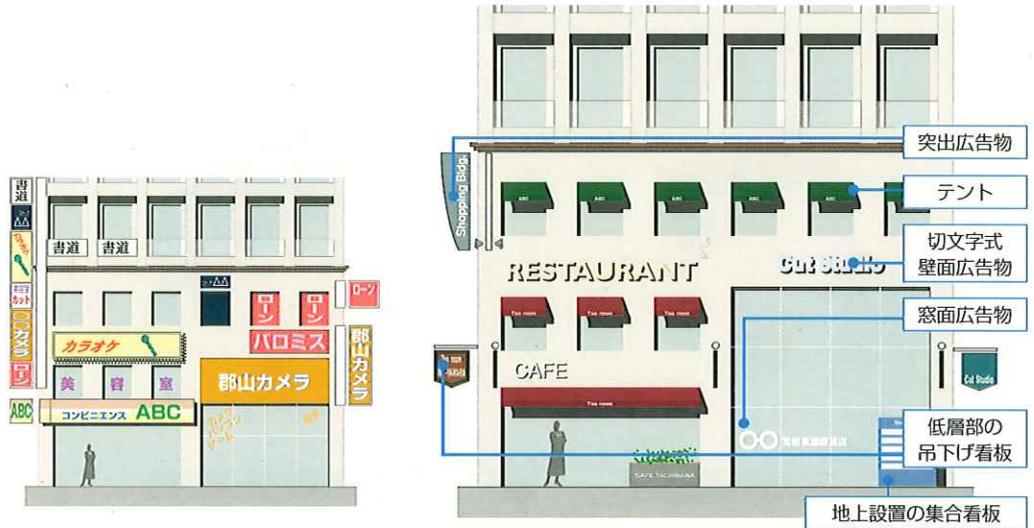
＜広告物の設置等の工夫＞

広告物の集約化

広告物の大きさや位置が揃っていないと雑然とした印象になります。特に、面積が大きい広告物では色の使い方にも注意が必要です。

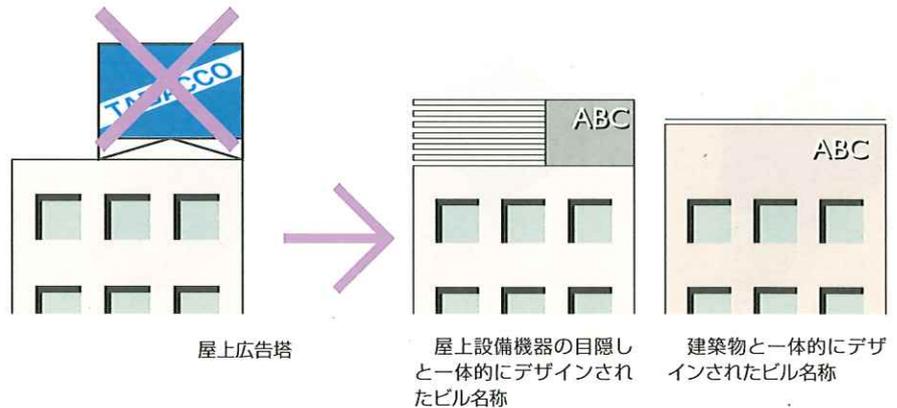


突出広告物や壁面広告物ではできる限り整理し、大きさやデザインを揃え、低層部の吊り下げ看板や地上設置の集合看板などに集約化することが望まれます。



屋上広告塔

屋上広告塔は、原則として設置しないようにします。ビルの名称などについては、屋上設備機器の目隠しと建築物が一体化するようにします。



突出広告物

道路上に設置するものについては、この基準以外に道路占用の許可基準による突出幅、設置高さなどの制限があるので、他法令との調整が必要です。



壁面広告物

壁面広告は、切り文字式の場合やそれ以外の場合とで表示の仕方について個別の基準を設定します。

切り文字式

壁面積との比率等で表示面積を規定します。

切り文字式以外

箱形内照式など切り文字式以外の壁面広告物の場合は、設置高さや広告物の大きさなどを規定します。



日除けテント

日除けテント等の色彩は、まず基調色となる色彩を決め、更に文字の表示の仕方、サイズなどを規定します。
(例：エンジ又はダークグリーンの基調色)

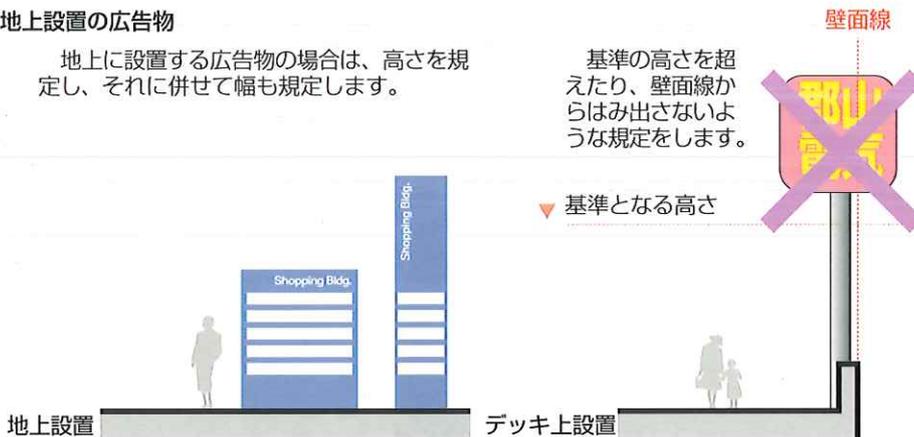
窓面を完全に覆うテントや窓面広告は、設置させないような規定をします。



地上設置の広告物

地上に設置する広告物の場合は、高さを規定し、それに併せて幅も規定します。

基準の高さを超えたり、壁面線からはみ出さないような規定をします。



◎: 優良事例
 X: 景観阻害事例



◎ 周辺の歴史的特徴である表面の形態を継承することで、景観の連続性を分断しないようにしている。(兵庫県尼崎市)



◎ 伝統的な町並みの開口部などの形態を継承し、連続性に配慮している。(喜多方市)



◎ 伝統的な形態が連続することで歴史的な町並みの景観がつけられる。(埼玉県川越市)



X 形態の異なる建築物により景観の連続性が分断されてしまう。(フォトモンタージュ)

3 形態

ア 景観の連続性

自然や町並みの連続性を分断するような、違和感や圧迫感のある形態を避けること。

【基準のねらい】

自然や町並みのつくり出す連続性のある優れた景観は、秩序ある形態によってつくられます。違和感や圧迫感のある形態は、自然や町並みがつくり出す連続性のある景観を分断するため避ける必要があります。

【景観づくりの手法】

< 中心市街地・周辺市街地 >

- 建築物の屋根の形態や勾配に配慮する

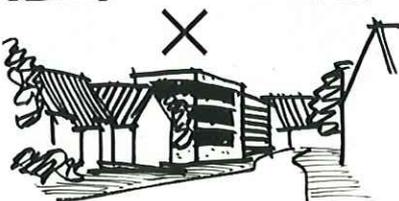
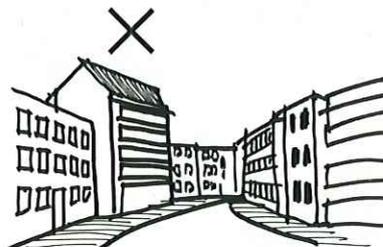
建築物の屋根の形態や勾配を合わせることで、連続性の感じられる町並みの景観をつくることができます。

< 田園集落地域・自然地域 >

- 奇抜な形態の建築物、工作物及び広告物を設置しない

自然景観の中では、奇抜な形態の行為は人工的な印象を与えるだけでなく目立ってしまうため、避ける必要があります。

< 町並みの連続性 >



連続性を分断する建築物は町並みを壊してしまう

3 形態

イ 構成要素の整理

工作物及び広告物については、構成する部材数を整理し、すっきりとした形態とすること。

【基準のねらい】

大規模な工作物及び広告物は、柱や梁などの構成する部材が多くなり煩雑な印象を与えることがあります。工作物及び広告物の構成する部材をできる限り整理し、形態をすっきり見せることにより、周辺と調和した景観をつくることができます。

【景観づくりの手法】

□構成する部材をできる限り少なくする

構造を検討し、できる限り部材を少なくする工夫をします。

□広告物を集約化して設置する

乱立している野立看板(独立型の広告物)等は、景観を阻害する原因になり、特に、自然景観の美しさを損ねます。看板を小さくする、集約し、整理するなどの工夫が必要です。

◎:優良事例
×:景観阻害事例



◎ 構成する部材を減らし、すっきりとした印象を与える鉄塔(広島県広島市)



◎ すっきりとした印象を与える煙突(福島市)

< 広告物の集約 >

幹線道路沿いに乱立する広告物は、数量を制限した上で、規模、形態等を揃え、集約して配置することにより、すっきりとした景観をつくることができます。



乱立した広告物



数量を限定し、大きさを合わせる。

◎：優良事例
✕：景観阻害事例



◎ 中層以上を壁面後退することにより圧迫感をなくしている。(佐賀県佐賀市)



◎ 建築物の平面形態を工夫して圧迫感をなくしている。(郡山市)



◎ 壁面に凹凸を付けることで複数の棟に見せ、圧迫感を軽減する工夫がなされている。(神奈川県横浜市)



✕ 立体駐車場の単調な壁面が周辺の町並みに違和感を与えている。

3 形態

ウ 圧迫感の軽減

建築物の外観は、奥行きが感じられるよう形態に工夫すること。

【基準のねらい】

大規模で単調な壁面は圧迫感を感じさせます。形態を工夫することにより、奥行きが感じられる景観とすることができます。

【景観づくりの手法】

□中層以上の壁面を後退する。

建築物の中層以上を道路境界線から壁面後退させることにより、道路景観に開放感を与えます。

□平面形態に凹凸をつける

建築物の平面形態に凹凸をつけることにより、壁面に陰影が生まれ、圧迫感を軽減します。

□壁面の構成で凹凸をつくる

建築物に附帯するバルコニーや窓などの形態を工夫して壁面に変化を付けることにより、奥行きが感じられる景観をつくることができます。

□ガラス面など視線の通る面積を増やす

建築物においてガラス面を増やすなど視線が通る工夫を行うことにより、圧迫感を軽減します。

＜建築物の高さと前面道路の幅員との関係＞

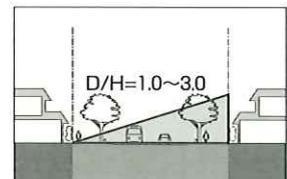
建築物の高さが、どの程度であれば圧迫感を感じなくなるかは、前面道路の幅員と密接な関係があります。

一般的に建築物の高さ(H)に対して道路幅員(D)の比(D/H)が小さい街路は閉鎖的な空間になり、大きければ開放的な空間になります。

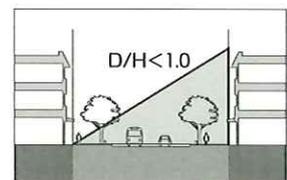
D/Hが1.0~1.5 付近にあれば均整があるとされ、1~3程度のバランスであれば心地よさがあるといわれています。

D/Hが1.0以下は閉鎖的になりますが、裏通りや横丁といった盛り場の親密で心地よい空間を演出します。

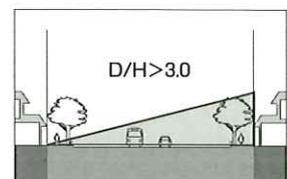
D/Hが3.0以上は開放的になりますが、茫洋とした空間にもなりますので、複数列の並木を設置し横断方向の分節化を図ったり、ランドマークとなるモニュメントの設置により空間を視覚的に引き締めることが大切となります。



D/Hが1.0~3.0程度の街路は心地よい空間となる



D/Hが小さい街路は閉鎖的であるが、親密な空間となる



D/Hが大きい街路は開放的であるが、茫洋とした空間となる

3 形態

エ 街角の景観づくり

行為地が街角等の目立つ位置にある場合は、形態を工夫し、地域の特徴となる景観を形成すること。

【基準のねらい】

街角は、車両や歩行者が一時的に停止する場所であったり、空間が開けている場所であることから、印象に残る場所となります。また、T字路の正面はアイ・ストップとなるため、このような場所では建築物の形態を工夫することなどにより、地域の特徴となる景観をつくることができます。

【景観づくりの手法】

□壁面を後退して広場をつくる

街角の目立つ位置にある建築物等の壁面を後退させ、歩行者のための広場空間や店舗の展示スペースなどとするにより、街角を特徴づけることができます。

□建築物の形態に特徴をつける

街角の目立つ位置にある建築物等の形態を工夫することにより、特徴ある景観をつくることができます。

◎:優良事例
×:景観阻害事例



◎ 街角の建築物の壁面を後退させ、曲面にすることにより特徴をつくっている。



◎ 街角の建築物の形態を円形にすることにより、特徴をつくっている。

◎:優良事例
 ×:景観阻害事例



◎ 素直な形態によって水辺と調和している。(米国アーバイン市)

3 形態

オ 水辺や緑との調和

行為地が湖沼、ため池、河川等の水辺や樹林、斜面林、里山等のまとまった緑に隣接し、又は近接する場合には、これらの自然景観との調和に配慮した形態とすること。

【基準のねらい】

湖沼、ため池、河川等の水辺や樹林、斜面林、里山等の緑などの自然景観は、安らぎと潤いを感じさせてくれるため、これらの自然景観と調和する形態とする必要があります。

【景観づくりの手法】

□奇抜な形態は避ける

奇抜な形態は、人工的な印象を与え、自然景観との調和を乱します。できる限り素直な形態とすることにより、水辺や緑と調和するよう配慮します。

□複雑な形態は避ける

複雑な形態は、煩雑な印象を与え、自然景観との調和を乱します。できる限り単純な形態とすることにより、水辺や緑と調和するよう配慮します。

3 形態

カ 広告物の設置の制限

建築物又は工作物への広告物の設置はできる限り避け、やむを得ず設置する場合は、形態を工夫することにより、建築物、工作物及びその周辺の景観との調和に努めること。

【基準のねらい】

建築物や工作物への広告物の設置は、景観を阻害する原因となるばかりでなく、かえって広告物の表示が分かりにくくなります。建築物や工作物へは広告物の設置をできる限り避け、やむを得ず設置する場合には形態を工夫し、周囲の景観と調和させることが重要です。

【景観づくりの手法】

□形態を工夫する

建築物や工作物への広告物の設置はできるだけ避けます。やむを得ず設置する場合は、建築物や工作物と調和するよう、文字だけで表現するなど形態の工夫を行います。

4 意匠

ア 圧迫感の軽減

建築物の外観は、奥行きが感じられるよう意匠に工夫をすること。特に、単調な大壁面による圧迫感をなくすこと。また、工作物及び広告物についても同様とすること。

【基準のねらい】

大規模で単調な壁面は、圧迫感を感じさせます。意匠を工夫することにより、圧迫感を和らげる景観とすることができます。

【景観づくりの手法】

□意匠を工夫して変化をつける

建築物の壁面に凹凸をつけるなど、形状を工夫して意匠に取り入れることにより、単調さを感じさせないようにします。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ 建築物の壁面と調和した広告物 (米国ボストン市)



◎ 壁面に取り込むことにより建築物と調和させた広告物 (米国サンフランシスコ市)



◎ 壁面の意匠に工夫をすることにより、変化をつけている。(千葉県千葉市)



× 歩道際から圧迫感のある大きな壁が立ち上がっている。

◎：優良事例
 ×：景観阻害事例



◎ 意匠の工夫により特徴ある景観を形成している。(東京都港区)

4 意匠

イ 街角の景観づくり

行為地が街角等の目立つ位置にある場合は、意匠を工夫し、地域の特徴となる景観を形成すること。

【基準のねらい】

街角は、車両や歩行者が一時的に停止する場所であったり、空間が開けている場所であるため、印象に残る場所となります。建築物の意匠を工夫することにより、地域の特徴となる景観をつくることができます。

【景観づくりの手法】

□建築物の意匠を工夫する

街角等の目立つ位置にある建築物等は、隣接する建築物と壁面の形状など意匠を工夫することにより、特徴ある景観をつくることができます。



◎ 奥行きのある意匠が水辺の景観と調和している。(広島県安芸高田市)

ウ 水辺や緑との調和

行為地が湖沼、ため池、河川等の水辺や樹林、斜面林、里山等のまとまった緑に隣接し、又は近接する場合には、これらの自然景観との調和に配慮した意匠とすること。

【基準のねらい】

湖沼、ため池、河川等の水辺や樹林、斜面林、里山等の緑などの自然景観は、安らぎと潤いを感じさせてくれます。これらの自然景観と調和する意匠とする必要があります。

【景観づくりの手法】

□奇抜な意匠は避ける

奇抜な意匠は、人工的な印象を与え、自然景観との調和を乱します。できる限り素直な意匠とすることが重要です。



◎ シンプルな意匠が背景の緑と調和している。(福島県郡山市)

4 意匠

エ まとまりのある意匠

ベランダ、バルコニー等は、建築物本体と調和したものと
するなど、建築物全体としてまとまりのある意匠とすること。
また、工作物及び広告物についても同様とすること。

【基準のねらい】

ベランダ、バルコニー等の建築物の壁面を構成する要素は、建築物本体の
壁面と調和させた意匠とすることにより、全体としてまとまりある景観をつ
くります。

また、工作物や広告物もまとまりのある意匠とすることにより、周囲の景観
と調和させることができます。

【景観づくりの手法】

□建築物の壁面と意匠を合わせる

ベランダ、バルコニー等は、建築物本体の壁面と一体的な意匠とす
ることにより、まとまり感のある建築物とすることができます。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ バルコニーと建築物本体の壁面の意匠を合わせ、まとまりのある景観を形成している。(千葉県浦安市)



× バルコニーを建築物本体の壁面と一体化して調和させている。(千葉県千葉市)

<全体を統一したデザイン>

建築物の設計においては、配置計画から基本設計、実施設計までの全体を統一したデザインで考えることが重要です。このため、さまざまな附属物についても形態、意匠、色彩、素材等を合わせるなど全体的な調和を常に意識する必要があります。このように細部まで統一した設計が行われた建築物は、遠景から近接景まで調和のとれた良好な景観をつくることができます。



◎：優良事例
 ×：景観阻害事例



◎ 周辺の歴史的建築物が持つ意匠を取り入れながら、現代的に洗練し、周辺と調和している。(会津若松市)



◎ 周辺に残る蔵の意匠を取り入れ、歴史的景観に馴染ませている。(埼玉県川越市)



◎ 周辺の歴史的町並みに共通する蔵の意匠を取り入れ、調和させている。(千葉県佐原市)

4 意匠

オ 歴史的建造物等との調和

行為地が歴史的建造物等に隣接し、又は近接する場合は、伝統的な意匠を継承し、これと調和したものとすること。

【基準のねらい】

歴史的建造物等の景観資源は、長い年月を経て地域の人々に親しまれています。このような歴史的建造物等の伝統的な意匠を保存し、又は取り入れていくことにより、地域全体を文化の香り高い、歴史性に配慮した景観とすることができます。大規模行為が歴史的建造物等に隣接し、又は近接する場合には、この伝統的な意匠を継承し、調和したものを考える必要があります。

【景観づくりの手法】

□ 屋根や軒などの意匠を揃える

通りから見える建築物の高さや軒の高さ、壁面の素材や構成、屋根の形状や勾配、窓の位置や形状、鬼瓦や飾り金物、その他の建築物を構成する要素を揃えます。

□ 伝統的な意匠を継承する

安易に意匠のみを模倣すると周囲から突出したものとなり、見苦しい印象の景観となります。伝統的な意匠を継承する場合は、特徴をよく理解した上で検討する必要があります。

<デザインモチーフを採用する場合の留意点>

歴史的なデザインモチーフを採用する場合、デザインモチーフの特徴をよく理解した上で設計を洗練させる必要があります。

安易な模倣は、周囲から突出したものとなり、軽薄な印象を与えます。

下の例は、デザインモチーフとして採用した歴史的意匠をより洗練することにより、新しい素材を使用しながらも歴史的な建築物と見事な調和が図られています。



機能や構造が異なるにも関わらず、城をデザインモチーフとした直接的な模倣によって軽薄な景観となっている。



古い工場の屋根の意匠だけをデザインモチーフとして採用し、さらに洗練することによって新旧の素材を使用しながら対照的な調和を図っている。(愛知県名古屋市)

【用語解説】

デザインモチーフ：デザイン表現の根拠となる対象。

4 意匠

カ 歴史的建造物の保全

歴史的な建築物の改築又は修繕にあたっては、建築物の材料の一部又は外壁等の意匠の一部を保存し、又は再生することによって歴史的な景観の保全に努めること。また、工作物についても同様とすること。

【基準のねらい】

歴史的な建築物や工作物がつくる町並みは、その場所の特徴を印象づけるとともに、地域の重要な景観資源となります。これらの建築物や工作物は、長い時間をかけて培ってきた文化や風土を感じさせ、後世に伝えていくために保全する必要があります。このため、これらの建築物や工作物を改築又は修繕する場合には、材料の一部や外壁等の意匠の一部を保存し、又は再生することにより歴史的な景観を継承することができます。

【景観づくりの手法】

□元通りに修復する

完全に元通りに修復することが最良の方法です。

□外壁等を保存

歴史的な建築物を新たに建て直すだけでなく、外壁等の意匠の一部を保存し、内部の構造、機能については更新、再利用することも検討する必要があります。

□歴史的な建築物の意匠を保存する

歴史的な建築物の高さや軒の高さ、壁面の素材や構成、屋根の形状や勾配、窓の位置や形状、鬼瓦や飾り金物、その他の建築物の意匠を保存することにより、歴史性を感じさせるとともに歴史的な景観を継承することができます。

<町並み再生の取り組み>

埼玉県川越市では、周辺の住民と行政の協力で蔵のつくる町並みの再生に取り組んでいます。

町の中には地区のランドマークとなっている「時の鐘」の隣の建築物が、本来の蔵の姿を覆い隠していたために、町並みの連続感が途切れていました。(写真右上)

そこでその建築物を元の蔵の姿に戻し、電線を地中化したことにより、連続感のある町並みを再生することに成功しています。(右下)



◎:優良事例
×:景観阻害事例



◎ 建築物の外観を旧来のまま保全しながら使用している。(会津若松市)



◎ 旧来の外壁を保存しながら高層ビルに改築して、まちの文化を継承し、保全している。(東京都千代田区)



◎ 蔵の外観はそのまま残し、内装を現代の商業に合うよう改装している。(埼玉県川越市)



◎ 歴史的建造物の外観はそのまま残し、新しい素材を組み合わせることで現代の商業に合うよう改装している。(岡山県倉敷市)

【用語解説】

棟飾り：傾斜屋根の棟の部分に設置される鬼瓦等の飾りもの。

◎：優良事例
 ×：景観阻害事例



◎ 屋上施設を建築物の意匠と合わせて隠ぺいすることで、外観上目立たないように工夫している。(郡山市)



◎ 設備機器を植樹帯の中に配置することで周囲から見えないようにしている。(郡山市)



◎ 設備機器に伝統的素材を活用して隠ぺいしている。(長野県松本市)



× 屋上又は屋外に設備機器を露出して設置すると見苦しい景観となり、建築物頂部がつくるスカイラインを乱すことになる。

4 意匠

キ 設備機器の遮へい

設備機器を建築物の屋上又は屋外に設置する場合は、目立たないように遮へいするか、建築物本体と調和したすっきりとしたデザインとすること。

【基準のねらい】

屋上や屋外に設置する建築設備機器のデザインへの配慮に乏しい建築物は、見る人に繁雑なイメージを与え、周辺の景観を損ねます。目立たないように遮へいするか、建築物と調和させるなどすっきりとしたデザインにする必要があります。

【景観づくりの手法】

□道路などの公共空間から見えない位置に配置する

設備機器は、地下や建築物の裏側など見えない位置に設置します。

□遮へいする

屋上や屋外に設置した設備機器を建築物の意匠の中に遮へいすることにより、すっきりとした景観になります。

□緑化する

設備機器の周囲を緑化することにより、目立たなくすることができます。

【用語解説】

壁面設備・屋上設備：煙突、排気塔、装飾塔、電波塔、高架水槽、冷却塔等の建築物の壁面や屋上などに設置される設備機器。

4 意匠

ク 壁面の公共性

道路等の公共空間から見通すことのできる外壁等は、公共性の高い部分として長く親しまれ、品位のある意匠となるよう配慮すること。

【基準のねらい】

道路に面した建築物の外壁等は、道路の景観を印象づける大きな要素であるため、親しみが感じられ、品位のある意匠とする必要があります。

また、公園や河川など他の公共空間においても同様です。

【景観づくりの手法】

□品位のある意匠とする

単調になりがちな壁面に奥行きを感じられる表情をつけるなど、人々に長年親しまれるような美しく品位のある意匠とします。

□奇抜な意匠としない

派手な装飾や看板などのように、目立つことだけを考えた意匠とすることは周囲の景観との調和を乱すため避けるようにします。

□緑化を行うことにより建築物の印象を和らげる

建築物の壁面を緑化することにより、建築物の人工的な印象を和らげることができます。

□自然素材を活用する

石材、レンガ、せり器質タイルなどの仕上げは、年月を積み重ねた風合いを感じさせます。このようなエイジング効果のある自然素材を積極的に使用し、また、これらの素材を生かしたデザインとすることが重要です。

◎:優良事例
×:景観阻害事例



◎ 壁面を奥行きを感じられる構成とし、単調になりがちな町並みに変化をつけるとともに、周囲の緑と調和させている。(東京都港区)



◎ コーナー部分に木を植えたオープンスペースをつくり、周囲の緑と一体的になるように配慮されている。(東京都渋谷区)



◎ 外壁に設けた外階段や中庭などを利用して、町並みに奥行きを感じさせている。(東京都渋谷区)



◎ 多くの人々の記憶に残る空間としてエイジングを考慮し、壁面をレンガ仕上げにしている。(北海道小樽市)

< 公的空間と私的空間との連続性 >



公的空間から私的空間の間に半公共的な空間を設け、緑化などの工夫を行うことにより、連続性のある豊かな表情を持った景観をつくり出すことができます。

【用語解説】

エイジング：熟成。時間を経ることによって生じる古び。

せり器質タイル：素地がせり器質のタイル。

半公共：私的空間と公的空間の間を不特定多数の人に供するよう公開している状態。

4 意匠

ケ 広告物の設置の制限

建築物又は工作物への広告物の設置はできる限り避け、やむを得ず設置する場合は、意匠を工夫することにより、建築物、工作物及びその周辺の景観との調和に努めること。

【基準のねらい】

建築物や工作物への広告物の設置は、景観を阻害する原因となるばかりでなく、かえって広告物の表示が分かりにくくなります。広告物の設置をできる限り避け、設置する場合でも意匠を工夫することにより建築物や工作物、またその周辺の景観と調和させることが重要です。

【景観づくりの手法】

□建築物や工作物の意匠と合わせる

建築物や工作物と広告物の意匠を合わせることにより、建築物や工作物、またその周辺の景観と調和させることができます。

＜施設名称を建築物の意匠に取り入れる＞

安易な図画の表示は、景観を乱さないために慎むべきですが、デザインの洗練次第ではそれらを意匠として取り入れることができます。

この場合は、行為地の町並みの現況や将来像などを十分に調査、検討した上で、建築物とのバランスに配慮して、文字の大きさ、書体、意匠等を決定する必要があります。

また、建築物単体の検討だけでなく、周囲の建築物を含め、シミュレーションなどで広く検討することが大切です。



施設名称と建築物の壁面を一体的にデザインして周辺との調和を図っている。(東京都府中市)

4 意匠

コ 広告及び描画の制限

建築物の外壁には、施設の名称等を除き、必要以上の広告、図画等の表示をしないよう努めること。また、工作物、広告物とそれらに附属するさく等の表面についても同様とすること。

【基準のねらい】

大規模建築物の外壁面は、周辺の景観に与える影響が大きいため、必要以上の広告、図画等の表示を避けます。また、工作物、広告物とそれらに附属するさく等の表面にも、必要以上の広告、図画等の表示を避け、周辺の景観との調和を乱さないようにします。

【景観づくりの手法】

□ 極端に大きな広告、図画等を表示しない

必要以上の広告、図画等の表示は避けます。やむを得ず表示する場合は、施設の名称等の必要最小限のものだけにします。



✕ 安易な壁面への図案化は、町並みの中で奇抜な印象を与える。



✕ 壁面への巨大で安易な図案化は、周辺の景観と建築物のスケール感の違いを際立たせ、町並みに違和感を与える。

- ◎: 優良事例
- ✕: 景観阻害事例



◎ 周辺の自然景観に合わせ、四季の変化の中でも調和する落ち着いた色彩を使用している。(兵庫県上郡町)



◎ 水辺と岩肌などの自然景観と類似した色彩を用いることで、規模の大きさをあまり感じさせないようにしている。(茨城県十王町)



✕ 美しい自然景観の中で派手な色彩を全面的に施すと、周辺から浮き出たものとなってしまう。

5 色彩

ア 周辺の景観との調和

建築物の外壁、屋根等には、けばけばしい色彩等の不快感を与える色彩を使用せず、四季を通じて周辺の町並みや自然景観と調和した落ち着いた色彩を基調とすること。また、工作物及び広告物についても同様とすること。

【基準のねらい】

建築物の外壁、屋根等は、周囲の景観に大きな影響を与えます。このため、建築物の外壁、屋根等には、けばけばしい色彩等の不快感を与える色彩を使用せず、落ち着いた色彩を使用することで四季を通じて周辺の町並みや自然景観と調和させます。また、工作物及び広告物についても同様です。

【景観づくりの手法】

- 原色等のけばけばしい色彩を使用しない

けばけばしい色彩を使用すると、周辺の景観との調和を乱します。このため、周辺の景観との調和に配慮した色彩を選定することが重要となります。

- 類似の色彩により調和させる

背景となる景観の色彩との差を小さくすることにより、周辺の景観に溶け込ませることができます。

- 彩度を抑える

彩度を抑えた落ち着いた色彩を使用することにより、周辺の景観と調和した違和感のない景観をつくり出すことができます。

< 中心市街地・周辺市街地 >

- 大規模建築物の低層、中層、高層の色彩に変化をつけ、調和させる。

低層部が店舗などの場合、色彩を工夫して賑わいをつくるができます。ただし、中高層部は周囲の町並みや背景となる自然景観と調和するよう彩度が低く、明度の高い色彩を使用します。

■ 低層部と中高層部の色彩



【用語解説】

落ち着きある色彩：原色に白、灰、黒等の色彩を混色した彩度の低い色彩。
アースカラー：大地の色。ベージュ系の茶系の色彩。緑とも調和しやすい。

4-3 行為別事項 【1】大規模建築物・工作物・広告物

<色彩の調和について>

色彩学の世界では、複数の色の組み合わせによる調和についてさまざまな研究が行われています。右に示したように、色相やトーンを揃えることで調和を図ることができます。

建築物などに使用される色彩は面積が大きいため、使用の仕方によっては不快感を与える場合があります。設計時に小さな色見本できれいに見えた色が、実際に建築物の色になると派手になりすぎることもあります。1㎡程度の大きさの色見本をつくって現地で確認するなど、実際に近い状況で検討することが重要です。

特に、自然が豊かな地域では極端に鮮やかな色を使用しないなど、慎重な色使いが求められます。

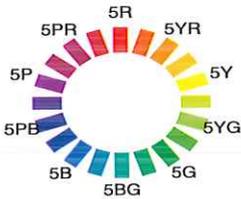


複数色の調和について
隣り合う色を調和させる場合には、いくつかの基本的な考え方があります。

・類似色の調和
赤みの色同士、青みの色同士といった色相が類似している場合は、調和して見えます。また、色相が異なる場合でも、トーンが同一の場合には調和して見えます。

・対比色の調和
隣り合う色の対比をコントラストといいます。このコントラストを強めることで調和をつくることができます。ただし、緊張感が強くなるため、大きな面積では調和しにくいことがあります。アクセントとして部分的に使用する場合などに効果的です。

マンセル色相環



■マンセル値
色彩を示す記号の1つに「マンセル値」があります。マンセル値では赤や黄色といった色の種類(色相)、色の暗さや明るさ(明度)、強い色や淡い色などの色の鮮やかさ(彩度)の3つの指標で色彩を表します。

■マンセル値表示の例
左の図の□は下のように表示します。

色相 明度 彩度
2.5YR 8 / 3
にてんごワイアール はち の さん

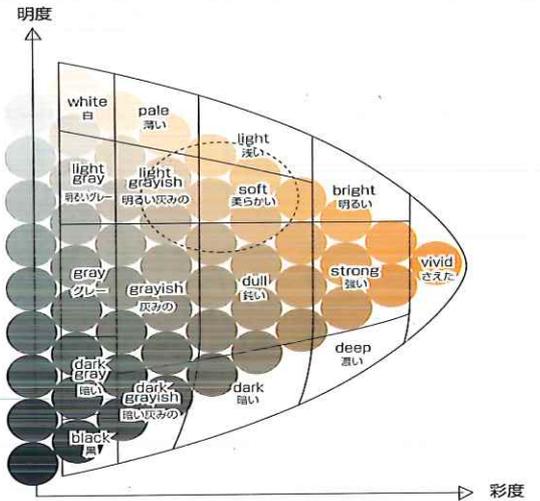
色相は頭文字 黒:0~白:10 数字が大きくなるほど鮮やかさが増します。
YRはイエロー レッドを指示します。 階で明るさを示します。

マンセル明度, 彩度



無彩色 淡い あざやか

トーン



■トーン
無彩色軸を中心にして、縦軸に明度、横軸に彩度をとり、この明度と彩度の両方を含んだ色の「薄い・濃い」「明るい・暗い」といった感じ方の特性をトーン(色調)といいます。
例えば、明度が高く彩度が低いグループをpale(ペール)、明度が低く彩度が高いグループをdark(ダーク)といった呼び方をします。

※ 印刷のため、正確な色ではありません。

【用語解説】

ベーシックカラー：基調色。配色全体の基本となる色彩。

アクセントカラー：基調色に対して映える強調色。全体を引き締めるために用いる。

アソートカラー：基調色と調和する色。基調色と組み合わせる色で、基調色の補助色。

色の三要素：色相、明度、彩度。



○類似色による調和

類似した色彩を使用した配色。
建築物の色彩を色相、明度、彩度とも類似させる。



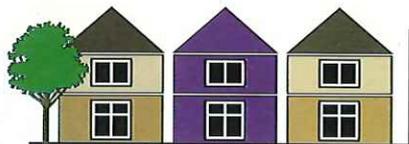
○色相による調和

色相を揃え、トーンに変化をつけた配色。
建築物の色彩を同一又は類似する色相で揃え、明度や彩度に変化を持たせる。



○トーンによる調和

トーンを揃え、色相に変化をつけた配色。
建築物の色彩を同一又は類似するトーンで揃え、色相に変化をもたせる。



×悪い例：高彩度により調和を乱す

高彩度の色彩は、周辺の景観と調和しません。
高彩度の色彩の使用は、町並みや自然環境では、特に控える必要がある。



×悪い例：色彩の組み合わせにより調和を乱す

いろいろな色彩を使用することは、できる限り避ける。
アクセント色を使用する場合は、色数を少なくし、周辺の景観や建築物との調和に配慮する。

和名 マンセル表示(色相・明度/彩度)	視認性 注目性	心理的影響	生理的影響	用途等
赤 4.0R・4.0/13.5	やや高い 非常に高い	刺激性が強く、興奮的 で、緊張を増す。	長時間の使用には 平衡を乱す。	アクセント的な利用に限る。 緑と相互に影響し合う。
橙 3.5YR 6.5/13.0	高い 非常に高い	刺激性が強く、興奮的。	準ずる	アクセントカラーとして利用 する。
黄 5.0Y・8.5/7.0	非常に高い 赤・橙について高い	刺激性が強く、興奮的。	中性	橙に準じてアクセントカラ ーとして利用する。
緑 4.0G・5.0/10.0	低い あまり高くない	安定	中性	明度と彩度を適度に高く すれば快適さを与える。
青 1.0PB・4.5/10.0	低い 低い	赤と相対する。	赤と相対する。	偽装という点で優れる。
紫 5.0P・3.0/8.0	低い 低い	興奮的	中性	視認性は低い、利用しな い。
白 N9.5	最も高い 高い	安定	中性	自然の緑の中では最も視 認性が高い。対比的調和 色としての利用には良い。
灰 N6.0	低い 低い	中性	中性	周辺の高彩度の色彩に影 響される。
黒 N1.0	低い 低い			補助色として使用すると 効果がある。
茶 2.5YR・5.0/8.0	最も低い 低い	安定	安定	自然公園内の指導色。案 内板等の基調色、屋根、外 壁等の標準色として利用 されている。同化調和色と して利用する。

参考資料:「自然風景地における建築デザインの基本に関する景観的考察」進士五十八 他

5 色彩

イ 対比的な色彩の調和

建築物の外壁、屋根等の一部に周囲の色彩と対比的な色彩を使用する場合は、周囲の色彩との調和に配慮し、対比的な色彩の面積が過大にならないよう努めること。また、工作物及び広告物についても同様とすること。

【基準のねらい】

建築物の外壁、屋根等の一部に周囲の色彩と対比的な色彩を使用することにより、アクセントとして景観に緊張感を与えたり、賑わいを表現することができますが、周辺の町並みや自然景観との調和を乱さないように十分に配慮し、対比的な色彩の面積が過大にならないよう注意する必要があります。また、工作物及び広告物についても同様です。

【景観づくりの手法】

□対比的な色彩をできる限り抑える

対比的な色彩の面積が過大になると周囲の景観との調和を乱すため、その面積を最小限に抑えることが重要です。対比的な色彩を使用する場合には、建築物の壁面の一部や附帯する工作物及び広告物に限るなどの工夫が必要です。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ 黄色のフレームが適切な規模で取り付けられ、住宅地の和やかな雰囲気を演出している。
(兵庫県神戸市)



◎ 建築物の限られた部位の鮮やかな色彩が、無彩色の和風建築物のアクセントになっている。
(会津若松市)



◎ 広告物が単調なコンクリートの壁面のアクセントになっている。
(大阪府大阪市)

◎：優良事例
 ×：景観阻害事例



◎ 建築物と同系の色相とすることで、統一感と周辺との調和を持たせている。(神奈川県横浜市)



◎ 建築物の外壁と合わせた色彩のさくで屋外設備機器を隠ぺいすることにより、建築物と調和している。(北塩原村)

5 色彩

ウ 建築附属物の色彩

建築物に設置される設備機器及び工作物並びに行為地内の屋外設備、附属工作物等の色彩は、建築物本体及び周辺の景観との調和に努めること。

【基準のねらい】

建築物に設置される設備機器及び工作物並びに行為地内の屋外設備、附属工作物等が、建築物本体や周辺の景観との調和が図られていないことにより、繁雑な印象を与えてしまいます。このため、これらの色彩は、建築物本体や周辺の景観と調和したものとすることが重要となります。

【景観づくりの手法】

□同系の色相を使用する

繁雑な印象を与えてしまいがちな屋外の設備機器等を建築物と同系の色相とすることで、建築物と調和した景観をつくり出すことができます。

□明度や彩度を抑える

屋外の設備機器等の色彩の明度や彩度を抑えることにより、周囲の自然景観と調和させることができます。

5 色彩

エ 公共性に配慮した広告物の色彩

行為地が主要な道路、河川、公園等に面する場合には、過度な色彩の広告物の掲出を控えるよう努めること。

【基準のねらい】

主要な道路、河川、公園等の公共空間に面した場所における過度な色彩の広告物は、景観を阻害してしまうため掲出は控えるよう努めます。

なお、それらの広告物に注意を引きすぎること交通事故の原因につながるため、過度な色彩の広告物の掲出は避ける必要があります。

【景観づくりの手法】

<中心市街地・周辺市街地>

□色数を多く使用しない

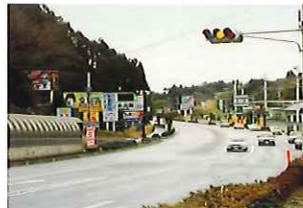
目立つために色数を多く使用したり、彩度の高い色彩を使用することは、景観全体を繁雑なものとしてしまいます。特に、道路や公園、河川など良好な視点場からの眺望を阻害するような色彩を使用することは避ける必要があります。

<田園集落地域・自然地域>

□対比的な色彩の組み合わせや原色、蛍光色を使用しない

対比的な色彩の組み合わせや原色、蛍光色などは、自然景観の美しさを損なうことになりかねないため、使用を避ける必要があります。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



× 過度な色彩の広告物は景観を阻害する。



◎ 彩度の低い色彩を用いることにより、目立たなくすることができる。(フォトモンタージュ)

◎:優良事例
 ×:景観阻害事例



◎ 足下灯を中心として必要最小限に光の量を抑えるとともに、色温度の低い光源で暖かい雰囲気をつくっている。(大阪府大阪市)



◎ さまざまな光源によるライトアップで幻想的な雰囲気を出している。ただし、光害に対する配慮も必要である。(北海道占冠村)

6 照明

ア 光害への配慮

屋外照明は、過剰な光が周囲に散乱しないよう光源の種類、位置、光量及び配光特性に配慮すること。

【基準のねらい】

過剰な照明が周囲に散乱しないように、光源の種類、位置、光量及び配光を工夫することにより、落ち着いた夜間の景観をつくることができます。

このようにすることにより、環境問題である「光害」を少なくすることもできます。

【景観づくりの手法】

<中心市街地・周辺市街地>

□光の色に配慮する

屋外照明は、安全性を確保すると同時に夜間の景観を演出します。例えば、暖かい雰囲気や魅力的な夜間の景観を演出するためには、色温度の低い光を使用します。

□配光に工夫する

屋外照明は、間接照明にするなど配光を工夫することにより、落ち着きの感じられる夜間の景観をつくることができます。

<田園集落地域・自然地域>

□光の向きや光の量に配慮する

光を広範囲に拡散させる照明の位置や光の向きは、落ち着きを求められる夜間の景観を乱したり、また生態系に影響を与えます。安全性、防犯性などを確保した上で、適切な照明計画を行う必要があります。

<光害ガイドライン>

都市化、交通網の発達などによる屋外照明の増加、照明の過剰な使用により、夜間の明るさが増大し、天体観測などへの障害となることが「光害(ひかりがい)」として指摘されています。また、照明の不適切又は過剰な使用によって眩しさといった不快感、信号などの重要情報の認知力の低下、農作物や動植物への悪影響などが報告されており、適切な対策を求める声が多くなってきています。

これらの状況を踏まえ、良好な環境保全上の観点からとらえ直すとともに、CIE(国際照明委員会)、IAU(国際天文学連合)による「夜空の明るさの抑制ガイドライン」の策定の動きに対し、国際的な整合を図ることに配慮しながら、人工光の使用に伴い、必要となる環境への配慮のあり方について、環境省は「光害ガイドライン」として取りまとめています。

さらに地球温暖化を防止するため、光害の抑制のための照明システムを作成し、二酸化炭素の排出を抑制することや光害への取り組みを通じ、国民一人一人のライフスタイルの改善を図ることも必要となってきています。

【用語解説】

間接照明：直接光源を表面に出さず、壁や反射板に当てた光による照明。

4.3 行為別事項 【1】大規模建築物・工作物・広告物

□人々の生活と光

もともと人類は、照明という技術がない時代から日中の明るく白い光の下で活動し、だいたい色の光が強まる夕方から暗い群青色の光だけがわずかに残る夕暮れという光の変化を感じながら生活してきました。

光と人間の行動との関係は、非常に長い間の年月のなかで築き上げられたものであり、人工的な照明は太古の景観にはみられなかった新たな都市の魅力を与え、人間の生活をより豊かなものにするための手段といえます。

□照明計画の目的

屋外の照明計画には以下のような目的があります。

- 夜間の景観の創出
- わかりやすい町の形成
- 安全な都市環境の形成
- 夜間における利便性の向上

公共事業の規模に応じて、用いられる照明器具は異なりますが、これらの視点で照明計画を考えることが重要となります。

□照明計画の留意点

○光のコントラスト

美しいと感じる夜間の景観は、暗いところと明るいところの組み合わせによって生まれます。このため、平均的に明るい場所では単調な印象となってしまう、魅力的な照明を行うためには明るさと暗がりの光のメリハリを考慮することが大切です。

○光と影

光と影の組み合わせによって建築物、橋梁等の構造物や植栽などを立体的に表現することが可能です。全体的に光を当てたライトアップでは平均的で立体感を損ねてしまいます。一般的には、片側から強い光を当て他方は弱い光により立体感を表現します。

○光源の種類

光源の種類は、行為地の場所の特性や事業の位置づけによって使い分ける必要があります。

例えば、光源と対象が補色関係になることは望ましくありません。(樹木にオレンジ色のナトリウムランプを組み合わせると光の色が濁ります。)

また、周辺に存在する既存の照明の色との調和に配慮する必要があります。

さらに、空間のイメージに合わせた光源の選択をすることも重要です。例えば住宅地等で暖かい雰囲気を出したいときには、ろうそくの光に近い黄色の光源を使用します。

□光の照度

周囲が暗ければ弱い光でも照明効果がありますが、周囲が明るければより強い光を使用せざるを得ません。こうした明るさの競合を避けるためにも用途や対象、景観の演出の目的にあわせて光の照度を調節する必要があります。

□色温度

色温度とは光の色味を表す指標で、単位は「K(ケルビン)」になります。表のように色温度の高い光は寒色系の光、低い光は暖色系の光となります。

また、光の色味は太陽の1日の動きになっており、白い光は昼間の光と類似しているため人々が活動的な気分となり、赤い光は夕方の光と類似しているため落ち着いた感じを受けます。

□光の高さと人間の心理

一般的には、低い位置の光ほど人間の視線に近いため、情緒的な空間の演出に使われ、上からの光は太陽光や月明かりで慣れ親しんでいるため、最も自然に感じます。



	光源	光束 (lm)	平均寿命 (h)	効率 lm/h	色温度 (K)	演色性 (Ra)	特徴	インシャルコスト
白熱電球	シリカ電球 100W	1,520	1,000	15	2,800	100	寿命が短い。光源が小さいので器具のデザインがしやすい。	安い
	ミニクリプトンランプ 150W	2,400	1,500	16	3,000	100		
	ハロゲンランプ 150W	2,400	1,500	16	3,000	100		
蛍光灯	白色蛍光灯 40W	3,100	12,000	77	4,200	61	低温になると光束が落ち、始動しにくくなる。安定器が必要。	安い
	電球色コンパクト蛍光灯 13W	840	6,000	65	3,000	84		
水銀灯	蛍光水銀灯 400W	22,000	12,000	55	3,900	40	低温で始動しにくくなる。安定器が必要。演色性低いが見えはあざやか。	比較的安い
	透明水銀灯 400W	20,500	12,000	51	5,800	14		
メタルハライドランプ	メタルハライドランプ 150W	32,000	9,000	80	4,300	70	水銀灯よりも効率が良く、演色性も高い。安定器が必要。	高い
	高演色メタルハライドランプ 150W	11,250	6,000	75	4,300	85		
高圧ナトリウムランプ	演色改善型高圧ナトリウムランプ 360W	36,000	12,000	100	2,150	60	効率が良く、寿命も長い。安定器が必要。	高い
	高演色高圧ナトリウムランプ 50W	2,400	6,000	65	3,000	84		

効率： ランプの全光束をその消費電力で割った値。ランプ効率が大きいほど効率のよい(経済的な)光源といえる。
 色温度： 光源の色を表す。数値が低いほど赤い色になり、高くなるほど青白い色になる。
 演色性： 光を当てた物体がどれほど正しくその物体本来の色に見えるかを表す。Ra (平均演色評価値) は白熱電球を100とし、それに近いほど演色性が良いことを示す。

- ◎:優良事例
 ×:景観阻害事例



- ◎ 壁面に取り付けられている照明が歩道にあかりを提供している。(神奈川県横浜市)



- ◎ ショーウィンドーのあかりが交差点の歩道を照らしている。(長野県松本市)



- ◎ ショーウィンドーとテントに反射した光が歩道を照らしている。(長野県松本市)

6 照明

イ 公共空間への寄与

道路空間にできる限り明るさを提供し、安全で安心なまちづくりに寄与すること。

【基準のねらい】

夜間は、できる限り道路空間に明るさを提供することにより、犯罪を抑止し、安全で安心なまちづくりに寄与することができます。

【景観づくりの手法】

- 建築物や敷地の出入口周辺を明るくする

建築物や敷地の出入口周辺は明るさを確保するよう、施設の規模や種類に合わせて適切な照明を行います。

- 窓やショーウィンドーの光を利用する

窓面やショーウィンドー、広告物などからの2次的な光も、夜間における道路空間を明るくする重要な光であるため、効果的に活用する必要があります。

- 壁面に歩道を照らす照明を設置する

建築物の壁面や塀が長く連続する場合は、屋外照明を設置して、道路空間に長い暗がりをつくらぬよう配慮する必要があります。

6 照明

ウ 魅力ある夜間の景観づくり

ショーウインドー、屋外照明及び広告物の照明を工夫し、魅力ある夜間の景観を形成するよう努めること。

【基準のねらい】

周囲との連続性や町並みとの調和を考慮しながら、ショーウインドーや屋外照明、広告物の照明を工夫し、魅力ある夜間の景観を創出します。

【景観形成の手法】

□ライトアップする

塔状の工作物やシンボルツリー、歴史的建造物などをライトアップし、景観づくりに活用していくことにより、魅力ある夜間の景観を創出します。

□照明によって水辺を演出する

湖沼や河川などに照明を効果的に配置することにより、水面に映り込む光をつくり出し、暗くなりがちな水辺の景観を魅力的なものにすることができます。

<中心市街地・周辺市街地>

□賑わいと活気を夜間景観によって演出する

商業地では、夜間の賑わいも重要です。通りの個性を考えながら、ショーウインドー、広告物等の光の明るさの調節や色の選択によって連続的で魅力的な夜間の景観を創出します。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ 建築物の柱の前に行灯型の照明を設置し、光の演出を行っている。(東京都港区)



◎ 店舗内部の光が外部に漏れることにより、通りに賑わいを創出している。(東京都港区)



◎ 店舗のファサードをライトアップし、魅力ある景観を創出している。(東京都港区)



◎ 華やかな演出による樹木のイルミネーションは、印象的な夜間の景観をつくる。(福島市)

【用語解説】

ファサード：建物の正面。

◎：優良事例
 ✕：景観阻害事例



◎ 落ち着いた明かりの連続により安らぎの感じられる景観をつくり出している。(英国ヨークビル)



◎ 木の広告物を外側から照らし出し、暖かさを演出している。(福井県金沢市)



◎ 樹木をやわらかい光で照らし出している。(茨城県水戸市)

6 照明

エ 明るさや光の色などの工夫

屋外照明及び広告物の照明は、周辺の町並みの特性に配慮し、明るさや光の色などに留意して暖かみの感じる魅力ある景観を形成するよう努めること。

【基準のねらい】

景観は、照明の明るさや光の色によって雰囲気が変わります。自然景観や賑わいのある景観など周囲の景観を考慮して、明るさや光の色を調節し、暖かみの感じる魅力ある景観とする必要があります。

【景観づくりの手法】

<中心市街地・周辺市街地>

□多様な光の演出をする

商業地では、光源となるショーウィンドー、広告物等の明るさや光の色などを工夫して多様な表情をつくり出すことにより、華やかで明るい魅力ある夜間の景観を創出することができます。

□落ち着いた光を使用する

住宅地では、落ち着いた暖かみのある光の使用を基本とします。露出したネオン管や点滅する光などは、極力避ける必要があります。

<田園集落地域・自然地域>

□自然景観には白い光を使用する

ナトリウム灯など色温度の低い橙色の光は、植物の緑と補色の関係にあるため色の調和を乱すことから、自然景観には色温度の高い白い光を使用します。

□光の見せ方に配慮する

紅葉や新緑、春の桜などを楽しむ場所には、光源の演色性や光の見せ方にも配慮し、自然と調和した夜間の景観を創出します。

□過剰な光を避ける

郊外型の商業施設が、集客のために過剰で過激な照明を使用している場合があります。景観の品位を損わないよう、色温度の低い落ち着いた光を使用する必要があります。

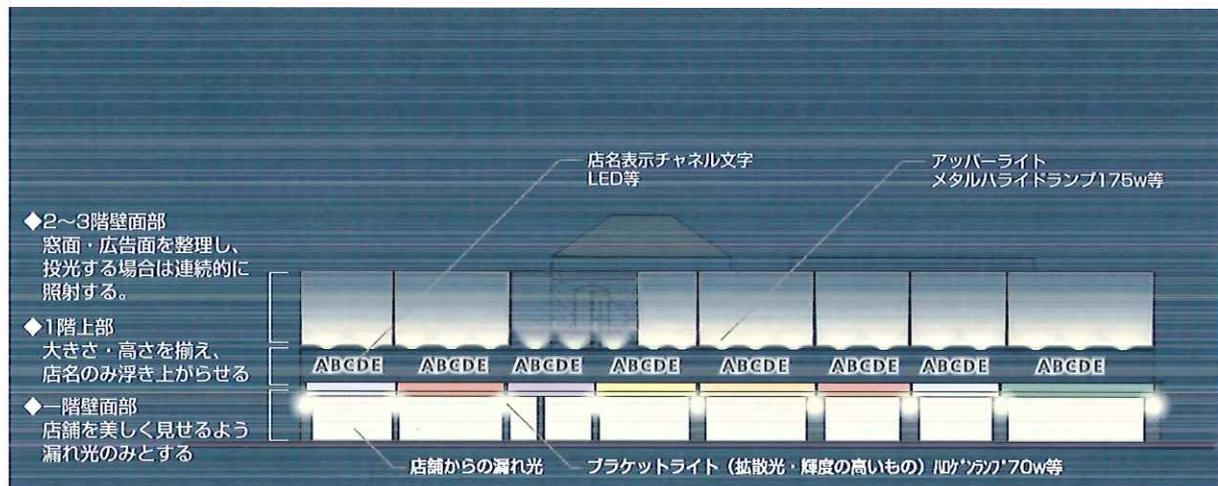
【用語解説】

補色：混ぜると無彩色になる色の組み合わせ。色相環において反対の位置にある色同士のこと。赤と青緑や青と黄赤、黄と青紫など。

賑わいのある夜間の景観づくりの例

投光箇所	1階壁面部			1階上部	2～3階壁面部	低層部上端
	入口部	ショーウィンドウ・間口	柱・壁面	帯状壁面 (広告物)	柱・壁面・広告	店名・建物名表示
投光の あらかた	ダウンライトで 顕在化する。	店舗から漏れた光に より賑わいを創出する。	ブラケットライトに より連続感を出す。	店名等文字の大きさを 揃え、できる限りチャ ネル文字で設置する。	窓面・広告面の形状 を揃え、連続的に投 光する。	建物名称等を設置す る場合は文字、大き さを揃え、投光する。
投光 イメージ						
投光手法						
推奨する 光の色		色温度の高い白い光を 基本とするが、状況による。		色温度の高い白い 光を基本とするが、 状況による。	自然な光の色 (オレンジ色)を 基本とする。	自然な光の色 (オレンジ色)を 基本とする。
明るさ		できる限り明るくする。				

夜間の景観づくりのイメージ



- ◎:優良事例
 ×:景観阻害事例



- ◎ 自然素材を多用することで、周辺の自然景観と調和している。(北塩原村)



- ◎ 屋根材をトタンから茅葺きに戻し、歴史性の復元、再生に努めている。(下郷町)



- ◎ 周辺の民家の土壁を調査して、色彩やテクスチャと調和するタイルを使用している。(三春町)

【用語解説】

素材：形や寸法が定まっていない材料
 (木材、金属、コンクリート等)

部材：建材として加工されている材料
 (舗石ブロック、タイル、瓦、建具等)

7 素材

ア 周辺の景観との調和

周辺の町並み、自然景観及び歴史・文化的景観との調和に配慮した素材を使用すること。

【基準のねらい】

土、木、石、レンガ等の素材を使用することにより、周辺の町並みや自然景観、歴史・文化的景観との調和に配慮します。

【景観づくりの手法】

- できる限り周囲と同じ素材を使用する

周囲と明らかに異なる素材を壁面等に使用すると、景観にまとまり感を損なう場合があります。できる限り周囲の景観との関係にも配慮した素材を使用します。

- 素材の組み合わせによって、できる限り品位ある景観をつくる

様々な素材をうまく組み合わせることで、品位のある景観をつくることができます。その場合、パターンやデザインが際立って周囲と馴染まないものにならないように注意する必要があります。

- 暖かみや重量感のある素材を使用する

暖かみのある素材は、人々への安心感をもたらす効果があります。また、重量感のある素材は安定感を感じさせます。このため、できる限りこのような素材を使用します。

※行為地や建築物が、都市計画法第8条第1項第5号(防火地域又は準防火地域)、建築基準法第22条(屋根)、同法第23条(外壁)、同法第24条(木造の特殊建築物の外壁等)により規制される場合には、これらに基づいた構造や仕上げとしなければなりません。この場合、使用材料を十分に吟味し、可能な限り周囲の景観と調和させる必要があります。

<対比的な素材をアクセントに用いる場合>

建築物のアクセントとして対比的な素材を組み合わせることがありますが、その場合は周囲の景観との調和を損なわない程度にする必要があるため、シミュレーションなどを行い、広く検討することが重要です。

右の写真は、歴史的な通りに面する部分には町並みの伝統的な素材である石を使用し、また現代的な通りに面する部分にはガラスを使用している。このように、石とガラスという対比的な素材を使用することにより、両方の町並みに調和するように工夫しています。(オーストリア ウィーン)



7 素材

イ 自然景観との調和

行為地が良好な自然景観の中にある場合は、反射性の高い素材を使用しないこと。

【基準のねらい】

自然景観は、四季折々の表情を持ち、人々に感銘を与えます。こうした自然景観の中に反射性の高い素材を使用した構造物があると、それだけが突出した印象を与え、せっかくの良好な自然景観を台無しにしてしまいます。このため、自然景観の中では反射性の高い素材を使用しないよう努める必要があります。

【景観づくりの手法】

□反射性の高い素材を使用しない

反射性の高い素材は遠くからでも目立ち違和感があるため、特に、風光明媚なところでは目障りとなってしまふことから、反射性の高い素材を使用することは避けます。

□表面の処理を工夫する

反射性の高い材料を使用する場合には、表面が反射しないような処理を施すなどの工夫をする必要があります。

□小さい面積で使用する

やむを得ず反射性の高い素材を使用する場合には、屋根、壁面等の大きな面積の材料に使用するのではなく、建具等の小さな面積の材料に使用します。

◎:優良事例
×:景観阻害事例



× 自然景観の中で反射性のある大規模な屋根は、周辺に対して目立ち過ぎる。(フォトモンタージュ)

<反射性の高い素材の使用>

モニュメント的な建築物など、特に目立つことが求められる建築物では、反射性の高い素材を使用する場合があります。

この場合には、建築物に使用する位置や面積、形態などについて、建築物だけでなく、周辺の状況とのバランスや様々な視点場からの見え方など十分な検討が必要です。



反射性の高い素材の面積を小さくし、また、方向を変えて配置することで背景の緑や水の自然景観と調和させている。(天栄村)



反射性の高い素材を適切な規模、形態で使用すると都市的な雰囲気や象徴性を持たせることができる。(千葉県印西市)

- ◎:優良事例
 ×:景観阻害事例



- ◎ 自然素材の質感が味わいと表情のある景観を創出している。(北塩原村)



- ◎ 自然石等の周辺で見られる自然の素材は、人工的なものにはない風合いが感じられる。(大玉村)



- ◎ 地場産材である木材を用いて柔らかい雰囲気と親しみやすさを感じることができる。(三春町)

7 素材

ウ 素材の選定

地域の自然素材、伝統的素材等、味わいと表情のある素材を選定するよう努めること。

【基準のねらい】

地域の自然素材、伝統的素材等は、昔から使用されている地域固有の素材であるため、地域の個性ある景観の形成に寄与してきました。このような味わいと表情のある素材を使用することにより、行為地周辺の景観との調和を図るとともに、地域の歴史や文化を育むことにつながります。

【景観づくりの手法】

- 地域の自然素材、伝統的素材をできる限り使用する

地域の自然素材や伝統的素材を使用することにより、その地域にまとまりのある景観をつくり出すことができます。また、これらの素材は、その地域の人々の生活に根付き慣れ親しまれてきたものであるため、このような素材を使用することにより、地域の人々の景観に対する愛着を育むことができます。

さらに、これらの素材は地場の産業や技術と結び付いており、地域の産業の振興にもつながります。

- 郡山市周辺の地場産材料

- 富久山のかわら材
- 浮金石(花崗岩)/壁・床材等
- 小野のあられ石(変成岩)グレー系の大理石類/壁・床材等
- 白河石(安山岩)セメント色/壁材等
- 阿武隈の白みかげ石(花崗岩)/壁・床材等
- 阿武隈の桜みかげ石
- 大越滝根地区 杉材

参考文献 「建築景観デザインマニュアル 福島県」 平成3年

7 素材

エ 歴史的建造物等との調和

行為地が歴史的建造物等に隣接し、又は近接する場合は、歴史的建造物等に使用されている伝統的素材又はこれと調和したものを使用するよう努めること。

【基準のねらい】

歴史的建造物等の景観資源は、長い年月を経て地域の人々に親しまれています。このような歴史的建造物等に使用されている素材を継承することにより、文化の香り高い、また歴史性を感じる景観とすることができます。このことから、行為地が歴史的建造物等に隣接し、又は近接する場合には、これらの伝統的な素材又はこれと調和した素材を使用する必要があります。

【景観づくりの手法】

□伝統的素材を使用する

隣接又は近接する歴史的建造物等と調和した伝統的な素材を使用することにより、町並みとしてまとまりのある一体感をつくり出します。このことにより、見た目のつながりだけでなく、形には表れない地域の歴史や文化のつながりをつくり出します。

□伝統的素材と調和する素材を使用する

伝統的素材と異なる素材を用いる場合は、景観の調和を乱さないよう、伝統的素材の質感などに配慮した素材を使用することにより、歴史的建造物等と調和させることができます。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ 伝統的素材を使用することで歴史的町並みを形成している。(喜多方市)



◎ 素材を周囲の町並みと揃え、伝統を継承している。(三重県伊勢市)



◎ 外壁や塀に伝統的素材である石や木を使用し、町並みと調和させている。(千葉県佐原市)

<伝統的素材が使用できない場合>

歴史的町並みでは伝統的素材を用いることが重要ですが、建築物の機能、コストなどで伝統的素材が使用できない場合があります。

このような場合でも、伝統的素材の質感などを工夫することで周辺の町並みに調和させることができます。



鉄筋コンクリート造でありながら外壁の素材の質感などを工夫して伝統的な蔵づくりの町並みと調和させている。(埼玉県川越市)

- ◎:優良事例
 ×:景観阻害事例



◎ 伝統的な町並みの素材は、経年の相応の風格を漂わせている。(岐阜県南木曾町)



◎ 屋根に使用している銅板が、素材の経年変化により風格を感じさせている。(兵庫県神戸市)



◎ レンガ等の焼成材料は、経年変化により味わいが感じられる素材となる。(神奈川県横浜市)

7 素材

オ エイジング効果等を考慮

建築後、汚れや破損などによって景観を損なうことがないよう、耐久性、耐候性、退色性、エイジング効果等を考慮した素材を使用すること。

【基準のねらい】

素材は時間とともに汚れ、破損していきます。特に、大きな汚れや破損は人目に付きやすく、景観を損ねる原因となります。良好な景観を維持していくため、耐久性、耐候性、退色性、エイジング効果等を考慮した素材を使用することが重要です。

【景観づくりの手法】

□耐久性、耐候性、退色性等の高い素材を使用する

周囲の景観と調和した建築物の屋根、外壁等には、できる限り耐久性、耐候性、退色性等の高い素材を使用することにより、長い期間にわたり良好な景観を保つことができます。

□エイジング効果によって味わいと表情が増す素材を使用する

素材には、汚れとして見えてしまうものと年輪や味わいとして見えるものがあります。耐久性がそれほど高い素材でなくても、エイジング効果によって周辺の景観と馴染むものを使用し、行為地の諸条件や周辺の景観との調和に配慮した素材を選定することが重要です。

□メンテナンス、改修等を定期的に行う

人が触れやすい部分の素材は痛みやすいので、耐久性のある素材を選定することはもちろんのこと、素材に応じた定期的な点検や改修などが必要となります。

【用語解説】

エイジング効果：年月を経て備わる風格、味わい。

8 敷地の緑化

ア 緑の連続性

周辺に屋敷林、公園等のまとまった緑がある場合には、これらと連続的な緑の景観を形成するよう努めること。

【基準のねらい】

屋敷林、公園等のまとまりのある緑は、安らぎと潤いを感じさせてくれます。周辺にまとまった緑がある場合には、これらの緑と連続させるような緑化を行うことが重要です。

【景観づくりの手法】

<中心市街地・周辺市街地>

□屋敷林や公園など既存の緑と連続させる

屋敷林や公園など既存の緑を生かしながら、それらの緑と連続させるような緑化を行うことにより、緑豊かな景観を形成し、景観の魅力を向上させます。

<田園集落地域・自然地域>

□既存の緑を回復させる

大規模行為は、自然景観を阻害する可能性があります。大規模行為によって影響を受けた自然の回復という観点からも、既存の植生や地形と調和した積極的な植栽を行うことにより、従前のような緑を回復させることができます。

◎:優良事例
×:景観阻害事例



◎ 屋上緑化を行うことにより、公共空間のまとまった緑と連続した景観をつくり出している。(米国サクラメント市)



◎ 建築後に丘陵地の樹林を復元し、背景の緑と調和させている。(兵庫県上郡町)



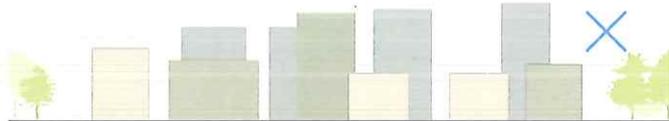
◎ 建築物を取り囲むように敷地境界線沿いに植えられた樹林(兵庫県上郡町)

建築以前



樹木による景観が豊かな行為地

樹木を伐採して建築等の行為を行う。



樹木をなるべく残して行為を行う。高層建築物が景観を支配するが、建築物の間に樹木を残し、景観のポイントをつくる。



多くの樹木を残すことにより、建築物間が隣接することなく樹木に覆われた景観を形成する。自然景観の維持と地域全体の生態学的見地から植物の維持が可能である。



◎：優良事例
 ×：景観阻害事例



◎ 生垣、高木で覆い、建築物の規模を景観に馴染ませている。
 (東京都渋谷区)



◎ 樹木と壁面緑化の組み合わせにより、緑豊かな景観を形成している。
 (東京都世田谷区)



◎ 敷地境界線沿いに植栽することにより、ヒューマンスケールを越えた大規模建築物の緩衝となる。
 (東京都新宿区)

8 敷地の緑化

イ 行為地内の緑化

建築物、工作物及び広告物との調和を図りながら、行為地内はできる限り緑化し、周囲にさく等を設ける場合は、生垣等とするよう努めること。

【基準のねらい】

大規模行為は景観に与える影響が大きく、人工的な印象を強く与えます。建築物、工作物及び広告物との調和を図りながら行為地内を緑化することにより、周辺の景観に与える影響を少なくするとともに、緑と調和した美しい景観づくりを目指します。また、周囲にさく等を設ける場合は、できる限り生け垣とすることで、圧迫感の軽減を図ることも重要です。

【景観づくりの手法】

□できる限り緑化する

行為地内は、高木や地被植物など空間の特性や機能に合わせて、できる限り緑化します。

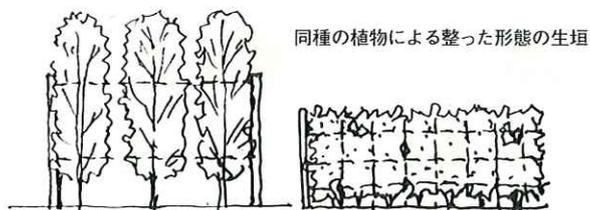
□壁面を活用して緑化する

壁面に植物を絡ませることのできる金属のフレーム等を設置することにより、壁面を緑化することができます。

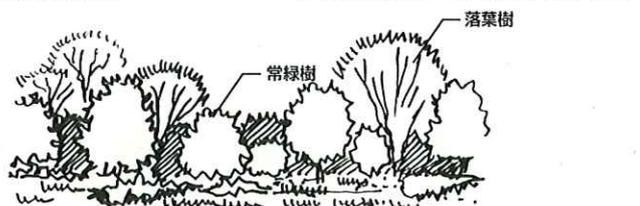
□できる限り生け垣を設置する

行為地の境界部分ではできる限り生け垣とし、やわらかい印象の景観をつくり出します。防犯や目隠しなどの機能上どうしてもさく等が必要な場合には、さくの外側に生け垣を設置します。

<整形形式の生垣>



<不整形形式の生垣>



【用語解説】

ヒューマンスケール：人間を基準とした大きさ。人間的な尺度。

8 敷地の緑化

ウ 樹木の保全

樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、保存又は移植によって修景に生かすよう努めること。

【基準のねらい】

樹姿や樹勢の優れた樹木は、地域のランドマークとして、また土地の記憶を残す要素として地域の人々に親しまれています。これらの樹木を大切な景観資源として保存又は移植することにより、修景に生かすよう努めます。

【景観づくりの手法】

位置や平面形態を工夫して保存する

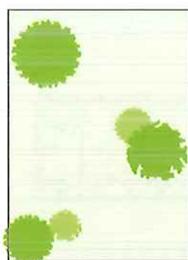
建築物、工作物及び広告物の位置や平面形態を工夫し、できる限り樹姿や樹勢の優れた樹木は保存します。

視点場からの眺望に配慮する

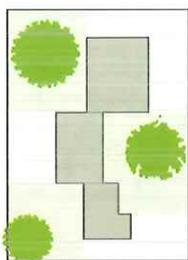
ランドマークとなる樹木を保存する場合は、周囲の視点場からの眺望に配慮し、建築物等の配置を検討する必要があります。また、ランドマークとなる樹木を移植する場合は、視点場からの眺望に配慮した位置とします。

移植によって保存する

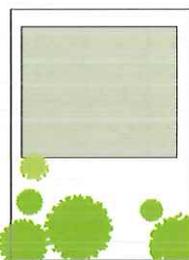
建築物の位置や平面の形態を工夫しても、既存の樹木を避けて建築できない場合には、移植することによって保存します。



樹木のある敷地



樹木を保存し、それに合わせて建築物を設計する。



樹木を移植して保全する。



◎：優良事例

×：景観阻害事例



大木と施設が残されている。
(郡山市)



敷地内に樹木を残して店舗を建築している。(郡山市)



既存の樹木を残すことを前提に建築され、形態や動線などが工夫されている。(神奈川県真鶴町)



既存の樹木を残すことで、建築物だけでは伝えきれない土地の歴史や文化を感じさせることができる。(熊本県大津町)

【用語解説】

動線計画：建築・都市空間において、人や物が移動する軌跡・方向などを線で示したもの。設計などを行う際に機能性・居住性を判定する指標となる。

◎: 優良事例
 ×: 景観阻害事例



◎ 周辺に植生する植物の中から樹種を選択し、幼木を中心に植栽している。(秋田県秋田市)



◎ 周辺に自生する植栽を敷地境界部分に施し、周辺の景観との調和を図っている。(北塩原村)



◎ クヌギ、コナラの植栽によって周辺の植生との連続性を確保している。(郡山市)

8 敷地の緑化

エ 地域の植生への配慮

周辺の景観及び植生と調和するよう、できる限り地域に多く生育する植物の中から樹種を選定すること。

【基準のねらい】

行為地内を緑化する場合には、できる限り地域に多く生育する植物の中から樹木の種類を選定することにより、周辺の景観と調和した景観づくりが可能となります。

【景観づくりの手法】

□ 行為地周辺の植生を把握し、緑化に生かす

行為地周辺の植生分布、成育状況に即した樹木の種類を選定することにより、周囲とのつながりを保つ効果が得られます。

□ 生物の生息を考慮する

鳥類や昆虫類などの生物は、特定の樹木と密接に関係した生態を持っています。このため、生態の保全上から生物の分布状況について理解し、行為地周辺の生息種に対応した植栽を計画することも景観づくりを行う上で必要なことです。



＜アカマツのある景観＞

市内には、アカマツが数多く見受けられます。行為地の周辺にアカマツがある場合には、これを生かした植栽計画を行うことも周辺の景観と調和する一つの手法です。

8 敷地の緑化

オ 植栽の構成及び配置

高木、中木、低木、地被植物等の構成及び配置を効果的に行うこと。

【基準のねらい】

高木、中木、低木、地被植物等の構成や配置を効果的に行うことにより、自然や季節を感じるなど多様な景観をつくることができます。

【景観づくりの手法】

□常緑樹と落葉樹を組み合わせる

広葉樹や針葉樹には、常緑するものと落葉するものがあるため、秋冬の紅葉、黄葉から落葉に至る変化を見込んで敷地全体を設計する必要があります。常緑樹と落葉樹の組み合わせにより、樹木を秋冬の彩りとして演出する方法があります。

□建築物等の高さに配慮して景観の構図を考える

行為地内を緑化する際は、建築物等の高さを超す高木をポイントとし、高木から中木、低木、地被植物までを多彩に組み合わせで植栽し、人工性と自然性を調和させることで、緑による変化のある景観をつくることができます。また、多彩な植物の組み合わせによる植栽は、単調な植栽よりも防災上では延焼防止の機能が強く、生態の保全上では生息する生物種が豊富になることが期待できます。

□花の季節変化を利用する

季節毎に咲く花を花暦として演出することも効果的です。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ 建築物周辺に高木、中木、低木、地被植物が豊かな構成により配置され、高層ビルの圧迫感を和らげている。(東京都新宿区)



◎ 隣接した公園と建築物の緑化が調和している。(福岡県福岡市)



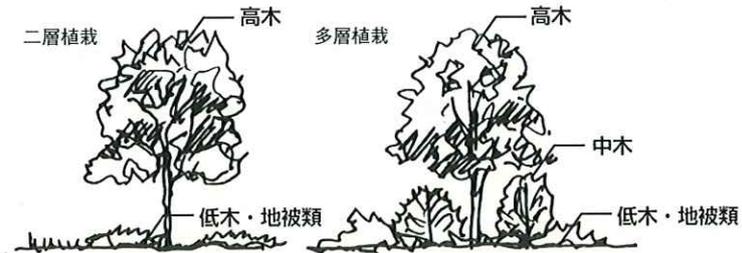
◎ 高木、中木、低木、地被植物を比較的簡潔に構成して空間の伸びやかさを表現している。(千葉県印西市)



◎ 高木、中木、低木の組み合わせが、通路部分から大きな建築物に至る雰囲気と和らげている。(千葉県印西市)

- ◎: 優良事例
- ×: 景観阻害事例

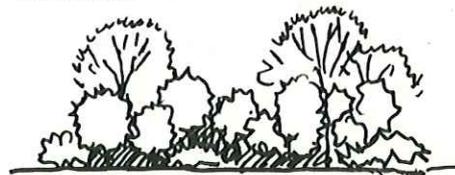
<二層植栽と多層植栽>



高木と低木・地被類から構成される二層植栽では、高木との対比効果を得るためにあまり高くない低木・地被類を選定します。高木を景観のポイントとして顕在化したい場合に効果的です。
 多層植栽では、背景の景観を覆ってしまうため隠ぺい機能が得られます。また、緑量感のある景観をつくることができます。

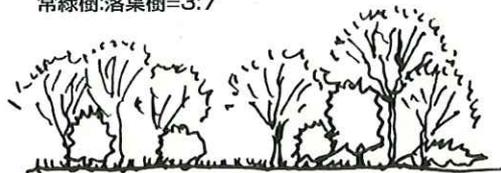
<常緑樹と落葉樹の構成比>

常緑樹:落葉樹=7:3



人の視線の高さに常緑樹を配置することにより、隠ぺい効果を持った植栽となります。この場合は、高木を落葉樹にすることによって秋冬の彩りを演出します。

常緑樹:落葉樹=3:7



落葉樹主体の植栽では、常緑樹を最小限にするとメリハリがある美しい景観をつくることができます。

<人工的な配置と自然的な配置>



人工的な配置

多様な樹木を組み合わせる場合には、周辺の景観の特性に配慮し、幾何学的で人工的な配置をするか、柔らかく自然的に配置するかを検討する必要があります。

中心市街地や周辺市街地で都会的な景観が求められる場合には幾何学的な配置を、田園集落地域や自然地域では周辺の自然景観と調和した柔らかく自然的な配置を行います。また、景域に関わらず、安らぎや潤いの感じられる落ち着いた景観が求められる場合は自然的な配置を行います。



自然的な配置

8 敷地の緑化

カ 公共空間との連続

道路等の公共空間に面する外壁等の前面については、建築物、工作物及び広告物が周囲に与える圧迫感を和らげるよう、樹木の高さ及び位置に配慮しながら植栽に努めること。

【基準のねらい】

道路等の公共空間に面する建築物の外壁等の前面については、建築物、工作物及び広告物が周囲に与える圧迫感を和らげるよう、樹木の高さや位置に配慮しながら植栽を行うことで、建築物等と自然景観が調和した良好な景観をつくることができます。

【景観づくりの手法】

□建築物と歩道の高木を連続的に植える

建築物の前面に余裕がある場合は、高木を連続的に植栽して建築物の圧迫感を和らげ、緑豊かな景観をつくり出すことができます。

□大きな樹木を植える

できる限り大きな樹木を植えることにより、少ない本数でも緑量を感じることができます。

□低木を連続的に植える

低木でも連続的に植えると、柔らかい印象をつくり出すことができます。

□壁面にツル性植物を這わせる

壁面にツル性植物を這わせることにより、人工的な印象を和らげることができます。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ 建築物の前面に高木を配置し、建築物の量感や固さを緩和している。(東京都港区)



◎ 壁面を後退させ、豊かな緑を配置している。(富岡町)



◎ 高木を緩衝材として建築物の圧迫感を軽減している。(東京都新宿区)



◎ 街路樹と外構の植栽、また中庭の植栽が一体となって緑量の感じる景観を形成している。(東京都渋谷区)

【用語解説】

仰角：高所にある対象を見る観測者の視線と水平面とのなす角度。

- ◎：優良事例
 ×：景観障害事例



◎ 窓辺の緑化により安らぎを感じさせる。(米国ボストン市)



◎ 桜を眺めることのできる視点場にベンチを設置している。(福島市)



◎ 広場に緑とベンチ等を設置し、魅力ある空間をつくり出している。(東京都台東区)



◎ 店先を花で覆うことにより、華やかな景観を形成している。(米国カーメル市)

【用語解説】

ストリートファニチュア：屋外で過ごすために設けられる道具や小施設。ベンチや照明。

9 その他

ア 魅力ある空間の創出

植木鉢、プランター、ベンチ等によって魅力ある空間を創出するよう努めること。

【基準のねらい】

緑や花で飾られた景観は、安らぎと潤いを感じられ、私達の目を楽しませてくれます。また、ベンチのある場所では風景を眺めたり、地域の住民のコミュニケーションの場所にもなります。積極的に緑や花で修景したり、ベンチを設置することにより、魅力ある景観づくりを行うことができます

【景観づくりの手法】

<中心市街地・周辺市街地>

□植木鉢やプランターを利用する

店先や窓辺、建築物の壁面など、植木鉢やプランター、ツルなどの緑や花で建築物を修景することが可能です。

□ベンチなどを積極的に設置する

ベンチなどのストリートファニチュアは、屋外空間での人々の生活を豊かにする道具です。人の集まる場をつくる小道具として積極的に活用し、魅力的な市街地の賑わいにつながります。

<田園集落地域・自然地域>

□視点場にベンチを設置する

良好な視点場にベンチなどを設置することにより、景観を楽しむ場所として整備し、快適な視点場とします。

9 その他

イ 屋外駐車場の緑化

屋外駐車場は、出入口を限定し、安全上支障のない範囲で生垣等を設置し、道路から直接見通せないよう出入口の位置に配慮するとともに、場内への樹木の植栽に努めること。

【基準のねらい】

屋外駐車場は、出入口の数や位置に配慮することにより、道路から直接駐車場を見通せないよう配慮します。

また、人工的な雰囲気になりがちな駐車場の周囲を生垣で囲んだり、駐車場内を高木などで緑化することで、緑豊かな景観をつくることができます。

【景観づくりの手法】

□ 出入口は最小限とし、位置を工夫する

出入口を数多く設けたり、人通りの多い道路側などに出入口を設けると、駐車場が直接見通すことができ、歩行者に人工的な印象を与えてしまいます。出入口の数を最小限にし、位置を工夫することで駐車場を見通しにくくすることが重要です。

□ 地形に合わず、又は分割するなどにより緑を保存する

平坦な駐車場は、人工的で殺伐とした印象を与えます。地形に合わせた造成や分割して設置するなどにより、既存の緑を保存し、周辺の自然景観と調和させることができます。

□ 駐車場内を高木等で緑化する

駐車場内を高木等で緑化することにより、緑豊かな景観をつくり出すことができます。

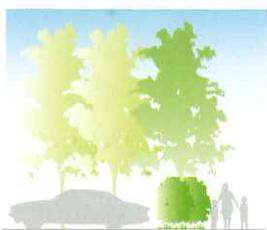
□ 植生ブロックを敷き詰める

駐車場をアスファルトやコンクリートだけにせず、植生ブロックを敷き詰めることにより、緑化することができます。

< 駐車場の植栽手法 >



駐車場は、可能な限り豊富な植栽をすることが大切です。その場合、外周だけでなく、駐車スペースも植生ブロック等を使用することで、緑の雰囲気がより感じられるようになります。



生け垣、マウンドアップなどで空間を区画することで、直接、車に目線が通らなくなり、さらに効果的です。



行為地が斜面地の場合、地形なりに造成することで、人の目線が通りにくい駐車場とすることができます。

◎：優良事例
×：景観阻害事例



◎ 場内を緑化することで駐車場の人工的な印象を軽減している。(玉川村)



◎ 高低差を利用した植栽により駐車場の人工的な印象を軽減している。(郡山市)



◎ パーゴラや植栽を適切に配置して駐車場の印象を和らげている。(福島市)



◎ 一本の大木が駐車場に安らぎと潤いを与えている。(郡山市)

- ◎: 優良事例
 ×: 景観阻害事例



- ◎ 公共の歩道と建築物の外構が一体的につくられている。(千葉県印西市)



- ◎ パーゴラや樹木によってわずかな空間を豊かなものになっている。(東京都港区)



- ◎ 建築物の前庭と公園が連続的につくられている。(三春町)



- ◎ 敷地内の広場が解放され、歩道と一体的な空間を形成している。(東京都港区)

9 その他

ウ 公共空間との一体化

行為地が市街地にある場合に、道路境界線から後退することなどにより生じた空間は、道路等の公共空間と一体となった開放的な空間として整備するよう努めること。

【基準のねらい】

道路境界線から後退することにより敷地内に空間を設け、隣接する道路等の公共空間と一体的な空間とすることにより、人の移動や滞留が誘発され、賑わいのある景観をつくり出します。

【景観づくりの手法】

- できる限り垣、さく、塀などを設置しない

敷地内を垣、さく、塀などで過剰に覆うと、町並みが閉鎖的な印象になります。できる限り垣、さく、塀などを設けず、開放的な空間とすることで、町並みにゆとりを持たせます。

- 壁面の後退により生じた空間を一体的に整備する

壁面の後退により生じた空間を歩道と一体的に整備することにより、連続した大きな空間が生まれ、ゆとりのある景観となります。

9 その他

エ 電線の地中化

行為地内における電線類は、地中化するよう努めること。

【基準のねらい】

行為地内に複数の建築物を建築する場合、建築物間を渡る電線類は、繁雑な印象を与えるため、地中化することですっきりとした景観をつくることができます。

【景観づくりの手法】

□引き込みを集約する

敷地内を電線類が渡らないよう引き込みを集約化し、地中化することですっきりとした景観をつくり出します。

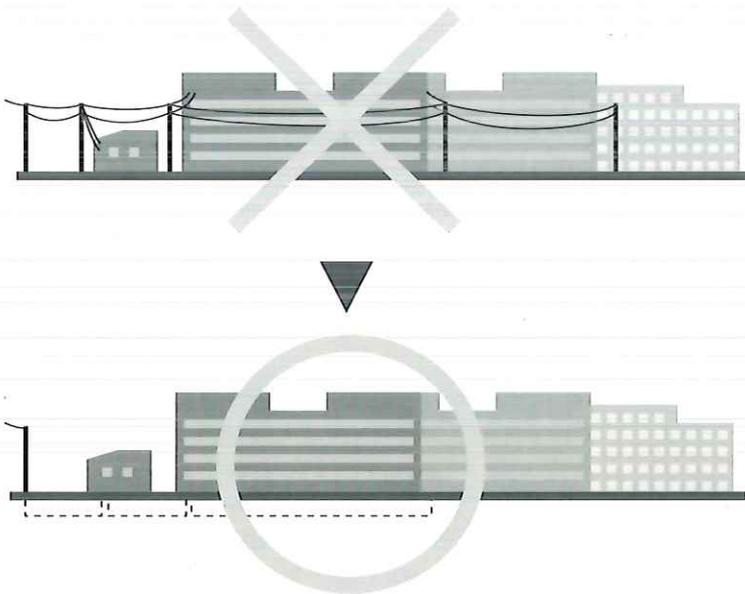
□設備機器、配線位置を工夫する

やむを得ず電柱を設置する場合は、設備機器を小さくする等の工夫によって繁雑な印象を軽減することができます。また、地上に配線をする場合は、軒下に配線するなどの細かな配慮も重要です。

□電柱の設置を最小限にし、民地側に設置する

やむを得ず電柱を設置する場合は、電柱の設置を最小限にし、また、民地側に設置することにより、すっきりとした道路空間とすることができます。

<電線類の地中化>



行為地内の電線類はできる限り地中化し、すっきりとした景観を目指すことが大切である



◎ 電線類の引き込みを工夫して、雑多な雰囲気にならないようにしている。(三重県伊勢市)



◎ 利用者の視界に電線類が入らないよう裏側に引き込み柱を配置している。(三重県伊勢市)



◎ 電線類を地中化することにより、魅力ある景観をつくり出している。(千葉県千葉市)



✕ 敷地内を電線が渡り、見苦しい景観となっている。